

LeXML

LEXicographical eXtensible Markup Language 3.0

Digital Assist, Ltd.

2014 年 9 月 8 日

本仕様書の利用条件

本仕様書の配布および利用は原則自由です。本仕様書の内容記述を変更しないこと、出典を明示することを前提条件として、無償でその全部または一部を複製、引用していただいて構いません。なお、本仕様書の著作権者は、本仕様書の利用により生じた損害について、法律上のいかなる責任も負いません。

Copyright © Digital Assist, Ltd., 2014 All Rights Reserved.

最新のバージョン

仕様書の最新バージョンは、 <http://www.d-assist.com/> で公開されています。

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 第1章 LeXML について | 7 |
| 1.1 LeXML とは何か | 7 |
| 1.1.1 LeXML 化タイトルの内訳 (2014 年 7 月現在) | 7 |
| 1.2 LeXML の目的と用途 | 8 |
| 1.3 LeXML の方針 | 8 |
| 1.4 LeXML の文書形式 | 9 |
| 1.4.1 XML 文書型 | 9 |
| 1.4.2 エンコーディング | 9 |
| 1.4.3 現実的な対応 | 9 |
| 第2章 構造タグ | 10 |
| 2.1 パラメータエンティティ定義 | 10 |
| 2.1.1 %inline.html | 10 |
| 2.1.2 %inline.lexml | 10 |
| 2.2 ルート要素 | 10 |
| 2.2.1 dic-item | 10 |
| 2.3 見出し語関連 | 11 |
| 2.3.1 head | 11 |
| 2.3.2 headword | 12 |
| 2.3.3 key | 12 |
| 2.4 本文関連 | 13 |
| 2.4.1 meaning | 13 |
| 2.4.2 example | 13 |
| 2.5 子見出し関連 | 14 |
| 2.5.1 subhead | 14 |
| 2.5.2 subheadword | 14 |
| 2.6 その他のブロック要素 | 15 |

| | | |
|-------|----------------------------|----|
| 2.6.1 | index | 15 |
| 2.6.2 | indexlist | 15 |
| 2.6.3 | column | 16 |
| 2.6.4 | div | 16 |
| 2.6.5 | title | 16 |
| 2.7 | メディア関連 | 16 |
| 2.7.1 | image | 16 |
| 2.7.2 | audio | 17 |
| 2.7.3 | video* | 17 |
| 2.8 | その他の構造タグ | 17 |
| 2.8.1 | p | 17 |
| 2.8.2 | ul, li | 18 |
| 2.8.3 | dl, dt, dd | 18 |
| 2.8.4 | table, caption, th, tr, td | 18 |
| 2.8.5 | replace* | 19 |
| 2.8.6 | memo* | 19 |
| 2.8.7 | data* | 20 |
| 第3章 | インラインタグ | 21 |
| 3.1 | ラベル | 21 |
| 3.1.1 | alabel | 21 |
| 3.1.2 | glabel | 21 |
| 3.1.3 | slabel | 22 |
| 3.2 | 発音・アクセント | 22 |
| 3.2.1 | accent | 22 |
| 3.2.2 | pron* | 22 |
| 3.2.3 | pha* | 22 |
| 3.2.4 | ipa* | 23 |
| 3.2.5 | pinyin | 23 |
| 3.3 | 品詞等 | 23 |
| 3.3.1 | pos, POS* | 23 |
| 3.3.2 | gender | 24 |
| 3.4 | その他の辞書要素 | 24 |

| | | |
|--------|----------------|----|
| 3.4.1 | abbr* | 24 |
| 3.4.2 | article | 24 |
| 3.4.3 | etym* | 24 |
| 3.4.4 | ex | 25 |
| 3.4.5 | fullform* | 25 |
| 3.4.6 | inflec | 25 |
| 3.4.7 | lang | 25 |
| 3.4.8 | note | 26 |
| 3.4.9 | pro-n* | 26 |
| 3.4.10 | pro-v* | 26 |
| 3.4.11 | svoc* | 27 |
| 3.4.12 | variant | 27 |
| 3.4.13 | ymd* | 27 |
| 3.4.14 | cn, jp, kr, tw | 27 |
| 3.4.15 | ggk | 28 |
| 3.4.16 | hs | 28 |
| 3.4.17 | kigo | 28 |
| 3.5 | 文字裝飾 | 29 |
| 3.5.1 | b, B | 29 |
| 3.5.2 | big | 29 |
| 3.5.3 | em, EM | 29 |
| 3.5.4 | i, I | 30 |
| 3.5.5 | small | 30 |
| 3.5.6 | sub, SUB | 30 |
| 3.5.7 | sup, SUP | 31 |
| 3.5.8 | u, U | 31 |
| 3.5.9 | fbox, FBOX | 31 |
| 3.5.10 | light | 31 |
| 3.5.11 | oblq* | 32 |
| 3.5.12 | sc | 32 |
| 3.5.13 | ud | 32 |
| 3.6 | 組版 | 32 |
| 3.6.1 | br, BR | 32 |

| | | |
|------------|-------------------------------------|-----------|
| 3.6.2 | nobr | 33 |
| 3.6.3 | ruby, rb, rt | 33 |
| 3.6.4 | mlg | 33 |
| 3.6.5 | mlgbr* | 34 |
| 3.7 | その他 | 34 |
| 3.7.1 | a | 34 |
| 3.7.2 | img | 34 |
| 3.7.3 | gi | 35 |
| 3.7.4 | hidden | 35 |
| 3.7.5 | ref, REF | 35 |
| 3.7.6 | span | 36 |
| 3.7.7 | spellout | 36 |
| 3.7.8 | url | 37 |
| 3.7.9 | xref, XREF | 37 |
| 3.8 | LeXML v.3.0 で廃止したタグ | 38 |
| 第4章 | 外字 | 39 |
| 4.1 | HTML のエンティティ定義を使用する | 39 |
| 4.2 | LeXML で独自に拡張定義した実体参照を使用する | 39 |
| 4.3 | ユニコードの数値参照を使用する | 39 |
| 4.4 | gi 要素を使用する | 39 |
| 第5章 | LeXML エンティティ | 40 |
| 5.1 | アルファベット | 40 |
| 5.2 | 発音記号 | 56 |
| 5.3 | 記号類 | 58 |
| 5.4 | 数字 | 61 |
| 5.5 | ギリシア文字 | 63 |
| 5.6 | 数学関連 | 66 |
| 5.7 | 漢字 | 69 |
| 付録A | 日本の辞書の特殊事情について(まとめ) | 70 |
| A.1 | 日本語辞書の見出しの特殊性 | 70 |
| A.2 | 各「見出し」要素の特徴 — 見出し語検索の問題点 | 70 |

| | | |
|-------|----------------------|----|
| A.2.1 | 仮名見出し | 70 |
| A.2.2 | 漢字表記 (見出し) | 71 |
| A.2.3 | 単漢字 (見出し) | 72 |
| A.2.4 | 子見出し | 72 |
| A.3 | 読書端末での利用を想定した検索上の問題点 | 72 |
| A.3.1 | 活用語の問題 | 72 |
| A.3.2 | 同表記異義語の問題 (ヨミが違うなど) | 72 |
| A.3.3 | 分かちの問題 (分かちがない) | 73 |
| A.3.4 | ルビなどの問題 | 73 |
| A.3.5 | いろいろな表記 | 73 |
| A.3.6 | 省略形 | 73 |
| A.4 | 文字コードと字形 | 73 |

第1章 LeXML について

1.1 LeXML とは何か

LeXML は LEXicographical eXtensible Markup Language の略で、辞書および事典類の本体部分の構造化を目的とした XML 仕様である。デジタルアシスト社で実際に XML 化を行った辞書・事典類のニーズに基づき、拡張を施してきたものである。

LeXML v.1.0 2002 年 10 月公開。95 タイトルの辞書・事典類の実績に基づく。v.1.1(2003 年 4 月)、v.1.4(2003 年 9 月)、v.1.5(2004 年 1 月)。

LeXML v.2.0β 2007 年 12 月公開。220 タイトルの辞書・事典類の実績に基づく。国際規約 IEC 62605 ed1.0 (Multimedia systems and equipment - Multimedia e-publishing and e-books - Interchange format for e-dictionaries) として採用される。

LeXML v.3.0 2014 年 7 月公開。500 タイトルの辞書・事典類の実績に基づく。国際規約 IEC 62605 ed2.0 と連携予定。

1.1.1 LeXML 化タイトルの内訳 (2014 年 7 月現在)

| | |
|--|-------|
| 国語辞典 (+類語, ことわざ, 古語, 漢字など)  | 74 点 |
| 英語辞典 (英和, 和英, 英英など)  | 111 点 |
| 外国語辞典 (仏, 独, 西, 伊, 葡, 中, 露ほか)  | 57 点 |
| 事典 (百科, 新語, 人名, 地名, 専門分野ほか)  | 265 点 |
| 合計 | 507 点 |

1.2 LeXMLの目的と用途

現在、辞書コンテンツを LeXML 仕様でデジタル化する目的の大半は、電子辞書(携帯型辞書端末)、Web ベースの辞書検索サービス、スマホ・タブレット用ダウンロードアプリへのデータ提供であるといっている。LeXML もまた、これらの用途・要求仕様を前提とした最低限の(費用・工期の制限による)作り込みに対応する形で設計がなされ、各種デバイスやユーザインタフェースの進化(“できること”の増加)に随時対応しながら拡張されてきたという経緯がある。

辞書コンテンツ(デジタル)は、特に毎年モデルが一新される携帯型辞書端末の要請により、「最新」「正確性」「付加価値の高さ」といった要素が求められ続けていて、書籍版辞書の改訂や増刷時修正とは異なるサイクルでの更新が必要となっている。そのため LeXML は、外部提供時に変換処理する“配布用/交換用”フォーマットという役割だけではなく、修正更新・追加加工を前提とした“デジタル版マスタ”としての役割も担うこととなった。

出版社における辞書編集工程のデジタル化に伴い、現版 XML データを基にした改訂版編集、既存 XML データを活用した新規企画の編集、原稿データを直接 XML 化した上での書籍編集、といった用途も、近年目立って増えてきている。LeXML ではこのようなニーズについても随時対応しつつ、書籍用組版との連携も高めているところである。

1.3 LeXMLの方針

シンプルな構造 デジタル化作業環境の早急な立ち上げという目的のためには、簡潔で容易に理解・習得できる仕様が求められる。何重もの入れ子構造が発生するような複雑なブロック構成やタグの多用は可能な限りこれを避け、タグやエンティティの名称もシンプルなものとし、また属性値に日本語を許容して、文系編集者でもある程度の知識を身につければちょっとした修正や編集作業が行えるシンプルな構造を目指す。また、特別な専用ツールの導入を前提とせず、テキストエディタなどによって作業が可能であることを前提とする。

辞書の個性の尊重 “先に器ありき”でその固定されたフォーマットの中に要素を詰め込んでいくという方式では、各種コンテンツの交換性は上昇するが、辞書の個性を殺しかねないと考えられる。LeXML では、画面上で大まかな組版/情報配置を規定するタグは定めるが、インラインタグも含め、その属性指定において自由度を大きく残している。電子辞書メーカーやシステム・アプリ開発の現場においては基本タグを注視して改行タイミングやインデントを制御し、編集メンテナンスの立場においては属性値も加えてデータを取り扱う、という使い分けが可能である。

作り込みの自由度 XML 文書の利用上のニーズ、または XML 化にかけられるコストに合わせて、構造化レベルをある程度自由に設定できる。多くの場合、辞書データの XML 化作業に与えられる費用と工期は途方に暮れるほど少なく短い。データの提供先によって、どのような検索・画面切り替えを想定するのか、画面表示のレイアウト・表現はどのレベルまで可能なのか、といった諸条件を勘案し、最良のコストパフォーマンスで XML 化にあたるべきである。LeXML 仕様はこの考えのもとに、必要最小限の仕様からスタートして、各種デバイスやシステムの機能・ユーザインタフェースの進化と拡張に随時対応してきたという経緯がある。形式にこだわるより、必要な部分、費用対効果の高いところに、デジタル化コストを集中できる。

1.4 LeXML の文書形式

1.4.1 XML 文書型

- XML 文書型形式は XML1.0 の検証済み文書ファイルとする。
- 文書型は DTD により定義し、この仕様とともに公開される。
- Version 3.0 の公開識別子は "-//DTD LeXML 3.0//JA" とする。
- 文書型宣言は以下ようになる。

```
<!DOCTYPE lexml PUBLIC "-//DIGITALASSIST//DTD LeXML 3.0//JA"  
"http://www.d-assist.com/lexml300.dtd">
```

1.4.2 エンコーディング

使用する文字コードのエンコーディングは UTF-16 を推奨するが、それ以外のエンコーディングも許容する。

```
<?XML version="1.0" encoding="UTF-16" ?>  
<?XML version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
```

1.4.3 現実的な対応

.....というのが XML としての建前ではあるが、辞書の XML データは数十～数百 MB の容量となり、かつ XML 要素も数多い。ver.1.0 の頃はこれをパースするのは無理であったし、PC のスペックが向上した現在においてもファイル全体のパースとなるとそれなりに負荷が大きい。システム負荷は編集・メンテナンスコストにも影響が出るため、マスタデータは Valid XML ではなく、ルートに dic-item 要素を並べる形式とすることが多い。納品にあたっては、XML 宣言や文書型宣言を削除した形式で提供を求められることの方が、実際には多い。

また、文字コードの対応レベルはデータ提供先によって異なっており、ユニコード対応を前提としつつ、“ JIS 第一水準・第二水準まで ”をひとつの区切りとしておくことは有効である。文字コードはシフト JIS とし、ここに収まらない文字 (ユニコード) については参照形式で格納しておく方が、経験的には効率的・安全である。

第2章 構造タグ

2.1 パラメータエンティティ定義

以下、DTD で記述したパラメータエンティティ定義を示す。HTML 借用のタグと、LeXML 独自のタグが、DTD 内で一括りにされているのだな、と理解していただければそれで十分。

2.1.1 %inline.html

```
<!-- %inline.html: HTML からの借用 -->
<!ENTITY % inline.html "
    b | B | br | BR | em | EM | i | I | nobr | span | sub | SUB | sup | SUP |
    u | U | ruby | a | img | big | small ">
```

2.1.2 %inline.lexml

```
<!-- %inline.lexml: LeXML 規定の辞書要素 -->
<!ENTITY % inline.lexml "
    alabel | glabel | slabel | pos | POS | hinshi | gender | pron | hatsuon |
    svoc | ref | REF | xref | XREF | inflec | lang | spellout | variant |
    hidden | light | sc | oblq | audio | video | note | accent | ex | etym |
    ymd | article | ud | hs | pha | ipa | pinyin | cn | jp | kr | tw | ggk |
    kigo | mlg | gi | fbox | FBOX | pro-n | pro-v | abbr | fullform ">
```

2.2 ルート要素

2.2.1 dic-item

項目単位での論理構造。検索・表示の単位となる。必須。

```
<!ELEMENT dic-item (head, (
    meaning | example | subhead | subheadword | index | key | column | div |
    p | image | audio | video | table | replace | ul | dl | memo | data )+)>
<!ATTLIST dic-item id ID #REQUIRED
    type CDATA #IMPLIED
    rank CDATA #IMPLIED
    level CDATA #IMPLIED
    orgid CDATA #IMPLIED
    pid CDATA #IMPLIED
    sortkey CDATA #IMPLIED >
```

属性: **id** その論理構造 (項目) の ID 番号を格納する。必須。

属性: **type** (オプション) その論理構造 (項目) 単位の種別を格納する。

属性値例: 親見出し、追込見出し、漢字項目、等。

属性: **rank** (オプション) その論理構造 (項目) について、重要単語等の情報を格納する。

属性: **level** (オプション) その論理構造 (項目) について、全体の (内容的な) 階層構造における位置・階層レベルの情報を格納する。

属性値例: 14_神奈川県、14100_神奈川県横浜市、1410_神奈川県横浜市鶴見区、等。

属性: **orgid** (オプション) 新規にナンバリングを施した場合等、既存の ID 番号を格納する。旧版の ID 番号、ソースデータの管理番号等。

属性: **pid** (オプション) 子項目を独立させた場合、その親項目の ID 番号を格納する。

属性: **sortkey** (オプション) 配列用のソートキーを格納する。

IEC62605 dic-item

sample:

```
<dic-item id="ABCD00000100">
<head>
<headword>みだし・ご</headword>
  <key>みだしご</key>
<headword type="表記">見出し語</headword>
  <key type="表記">見出し語</key>
</head>
<meaning>語義語釈、解説など</meaning>
  <example>用例</example>
<subheadword type="子見出し">子 [小] 見出し (派生語、複合語、成句など) </subheadword>
  <key type="子見出しかな">こみだし</key>
  <key type="子見出し表記">子見出し</key>
  <key type="子見出し表記">小見出し</key>
</dic-item>
```

2.3 見出し語関連

2.3.1 head

見出し語およびこれとセットとなる情報 (漢字表記、発音記号、見出し語の検索キー等) をブロック化する。必須。

```
<!ELEMENT head (headword | key)*>
```

IEC62605 head

sample: 英和辞典の場合

pyr·a·mid /pírəmid/

```
<head>
<headword>pyr·a·mid</headword>
  <key>pyramid</key>
<headword type="発音">p&iacute;r&schwa;m&igrave;d</headword>
</head>
```

sample: 国語辞典の場合

エジプト Egypt【埃及】

```
<head>
<headword>エジプト</headword>
  <key>エジプト</key>
<headword type="原綴">Egypt</headword>
  <key type="原綴">Egypt</key>
<headword type="漢字">埃及</headword>
  <key type="漢字">埃及</key>
</head>
```

2.3.2 headword

見出し語およびこれとセットなる情報を格納する。必須。

```
<!ELEMENT headword (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST headword type          CDATA #IMPLIED
                  delimiter CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 一般に type 属性が付属しないものを主見出しとして扱う。
主見出し語の異表記、発音等の情報は type 属性を用いて格納する。
属性値例: 漢字表記、発音、原綴、歴史仮名、等。

属性: **delimiter** (オプション) 書籍版において直前の要素に追い込む際の記号を格納する。

IEC62605 headword

2.3.3 key

当該 dic-item 要素を検索対象とするためのキーワードを格納する。基本的に表示 (または印字) 要素となる headword の下に配置。出現は head ブロック内に限定されない。

```
<!ELEMENT key (#PCDATA)>
<!ATTLIST key type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 一般に type 属性が付属しないものを主見出し key として扱う。主見出し語の異表記、かなよみ等の情報は type 属性を用いて格納する。
属性値例: 表記、かな、原綴、等。

IEC62605 key

2.4 本文関連

2.4.1 meaning

語義及びそれに類する用法・注記などの解説事項を格納する。後述する example 要素等と合わせてリPEATブルに出現。

```
<!ELEMENT meaning (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST meaning subid ID #IMPLIED
                  type CDATA #IMPLIED
                  level CDATA #IMPLIED
                  no CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) その語義本文の属性を示す。

属性値例: 解説、類語、語源、注記、等。

属性: **level** (オプション) 語義番号の階層レベルを格納する。

属性: **no** (オプション) 語義番号 (序数) を格納する。

IEC62605 meaning

sample:

```
1 (1) 人の氏名。姓名。(2) 姓に対しての、名。
2 事物の名称。(1) 一般の名称。(2) 固有の名称。
類語 人名・氏名・姓名・姓氏・姓・名字...
```

```
<meaning level="1" no="1">&bf1; </meaning>
<meaning level="2" no="1">&pr1; 人の氏名。姓名。 </meaning>
<meaning level="2" no="2">&pr2; 姓に対しての、名。 </meaning>
<meaning level="1" no="2">&bf2; 事物の名称。 </meaning>
<meaning level="2" no="1">&pr1; 一般の名称。 </meaning>
<meaning level="2" no="2">&pr2; 固有の名称。 </meaning>
<meaning type="類語">人名・氏名・姓名・姓氏・姓・名字...</meaning>
```

2.4.2 example

用例を格納する。対訳がある場合には、デリミタ「|」を介して連結する。1 用例ごとにタグを立てる。リPEATブル。

```
<!ELEMENT example (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST example subid ID #IMPLIED
                  type CDATA #IMPLIED
                  delimiter CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) 必要に応じて、用例の種別等を格納する。

属性: **delimiter** (オプション) 書籍版において直前の要素に追い込む際の記号を格納する。

IEC62605 example

sample: 国語辞典の場合

- 1 遊び道具。おもちゃ。「をかしき絵、 ども」 源・若紫
- 2 楽器。「多くの の音」 源・常夏

```
<meaning level="1" no="1">&bf1; 遊び道具。おもちゃ。</meaning>
  <example>「をかしき絵、 ども」 源・若紫 </example>
<meaning level="1" no="2">&bf2; 楽器。</meaning>
  <example>「多くの の音」 源・常夏 </example>
```

sample: 英和辞典の場合

- 1 よい，満足できる，すぐれた，りっぱな。 a ~ dictionary よい辞書 / ~ land 肥沃な土地
- 2 正当な； (...に) ふさわしい； (...するのに) 適した《to do》。 ~ for nothing 《略式》何の役にも立たない / a ~ place to live (in) 住みよい場所

```
<meaning level="1" no="1">&bf1; よい，満足できる，すぐれた，りっぱな。</meaning>
  <example delimiter=" " >a ~ dictionary | よい辞書</example>
  <example delimiter="/" >~ land | 肥沃な土地</example>
<meaning level="1" no="2">&bf2; 正当な； (...に) ふさわしい； (...するのに) 適した《to do》。</meaning>
  <example delimiter=" " >~ <i>for</i> nothing | 《略式》何の役にも立たない</example>
  <example delimiter="/" >a ~ place <i>to</i> live (in) | 住みよい場所</example>
```

2.5 子見出し関連

2.5.1 subhead

派生語、複合語などの子見出し (subheadword) とそれに付随する情報 (meaning、example、key) をセットにして格納する。

```
<!ELEMENT subhead (subheadword | key | meaning | example | column | div)*>
<!ATTLIST subhead subid ID #IMPLIED
                type CDATA #IMPLIED
                delimiter CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) 子見出しの種別等を格納する。

属性: **delimiter** (オプション・稀) 書籍版において直前の要素に追い込む際の記号を格納する。

IEC62605 subhead

2.5.2 subheadword

子見出しを格納する。

```
<!ELEMENT subheadword (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST subheadword type          CDATA #IMPLIED
                delimiter CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 派生語、複合語といった、見出し語(子見出し)の種別を格納する。

属性: **delimiter** (オプション) 書籍版において直前の要素に追いつく際の記号を格納する。

IEC62605 subheadword

sample:

```
con-di-tion-ál-i-ty [名][U] 条件 [制限] つき。
con-di-tion-al-ly [副] 条件つきで。
```

```
<subhead type="派生" subid="ABCD12345600">
<subheadword type="派生">con・d&igrave;・tion・&acute;l・i・ty</subheadword>
  <key type="派生">conditionality</key>
<meaning><pos>名</pos><pos>U</pos>条件 [制限] つき。</meaning>
</subhead>
<subhead type="派生" subid="ABCD12345700">
<subheadword type="派生">con・di・tion・al・ly</subheadword>
  <key type="派生">conditionally</key>
<meaning><pos>副</pos>条件つきで。</meaning>
</subhead>
```

2.6 その他のブロック要素

2.6.1 index

各種インデクス類をまとめるブロック。column タグで type 属性を「index」としてもよい。

```
<!ELEMENT index (meaning | indexlist)*>
<!ATTLIST index subid ID          #IMPLIED
                type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) インデクスの種別を格納する。

2.6.2 indexlist

各種インデクス類の個別情報。

```
<!ELEMENT indexlist (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST indexlist type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) インデクスの種別を格納する。

2.6.3 column

解説、コラムといった、囲み記事や網掛け記事を括るのに用いる。

```
<!ELEMENT column (title | key | meaning | example | subhead)*>
<!ATTLIST column subid ID #IMPLIED
                type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) コラム・囲み記事の種別を格納する。

IEC62605 column

2.6.4 div

汎用のブロック要素。

```
<!ELEMENT div (title | key | meaning | example | subhead)*>
<!ATTLIST div subid ID #IMPLIED
              level CDATA #IMPLIED
              type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) ブロックの種別を格納する。

属性: **level** (オプション) 階層を格納する。

IEC62605 div

2.6.5 title

column ブロック・div ブロックのタイトル。

```
<!ELEMENT title (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST title type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション)

IEC62605 *div タグの属性として採用

2.7 メディア関連

2.7.1 image

画像ファイル情報。非インライン。インラインの場合は、img を使用する。

```
<!ELEMENT image EMPTY>
<!ATTLIST image type CDATA #IMPLIED
                src CDATA #REQUIRED
                mime-type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 画像種別 (内容) 等を格納する。

属性: **src** 画像ファイル名を格納する。

属性: **mime-type** (オプション) MIME タイプを指定する。

属性値例 ; image/gif、 image/jpeg、 image/png、 等。

IEC62605 object

2.7.2 audio

音源ファイル情報。インライン使用も可。

```
<!ELEMENT audio EMPTY>
<!ATTLIST audio type CDATA #IMPLIED
                src CDATA #REQUIRED
                mime-type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 音源種別 (内容) 等を格納する。

属性: **src** 音源ファイル名を格納する。

属性: **mime-type** (オプション) MIME タイプを指定する。

属性値例 : audio/mpeg、 audio/vnd.rn-realaudio、 audio/wav、 等。

IEC62605 object

2.7.3 video*

動画ファイル情報。インライン使用も可。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT video EMPTY>
<!ATTLIST video type CDATA #IMPLIED
                src CDATA #REQUIRED
                mime-type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 動画種別 (内容) 等を格納する。

属性: **src** 動画ファイル名を格納する。

属性: **mime-type** (オプション) MIME タイプを指定する。

属性値例 : video/mpeg、 video/x-msvideo、 application/x-shockwave-flash、 等。

IEC62605 object

2.8 その他の構造タグ

2.8.1 p

パラグラフ。HTML タグの借用。

```
<!ELEMENT p (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST p subid ID #IMPLIED
           type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) テキスト種別を格納する。

IEC62605 p

2.8.2 ul, li

非序列リスト。HTML タグの借用。

```
<!ELEMENT ul (li)+>
<!ATTLIST ul subid ID #IMPLIED
           type CDATA #IMPLIED >
<!ELEMENT li (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST li subid ID #IMPLIED
           type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) リスト種別を格納する。

IEC62605 ul, li

2.8.3 dl, dt, dd

定義リスト。HTML タグの借用。

```
<!ELEMENT dl (dt|dd)+>
<!ATTLIST dl subid ID #IMPLIED
           type CDATA #IMPLIED >
<!ELEMENT dt (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST dt subid ID #IMPLIED
           type CDATA #IMPLIED >
<!ELEMENT dd (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST dd subid ID #IMPLIED
           type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) リスト種別を格納する。

IEC62605 dl, dt, dd

2.8.4 table, caption, th, tr, td

表組。HTML タグの借用。

```

<!ELEMENT table (caption? | tr+)>
<!ATTLIST table subid ID #IMPLIED
               type CDATA #IMPLIED >
<!ELEMENT caption (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST caption type CDATA #IMPLIED >
<!ELEMENT tr (th | td)*>
<!ELEMENT th (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST th colspan NMTOKEN #IMPLIED >
<!ELEMENT td (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST td colspan NMTOKEN #IMPLIED
           rowspan NMTOKEN #IMPLIED >

```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

IEC62605 table

2.8.5 replace*

テキストを囲み、置き換え可能ファイルを **src** 属性に格納する。 LeXML v.3 で追加。

```

<!ELEMENT replace (meaning | example | subhead)*>
<!ATTLIST replace subid ID #IMPLIED
                  type CDATA #IMPLIED
                  src CDATA #REQUIRED >

```

属性: **subid** (オプション) 子 ID 番号。

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

属性: **src** 基本的に、replace ブロック内のテキストと置き換え可能な画像ファイル名を格納する。原則、mimetype 属性は指定せず、拡張子が必要。

sample:

```

<replace type="語義の展開" src="admit.jpg">
<meaning> 「運ぶ」&bc7; 「身につける」&bc2; 「心に持つ」&bc4;</meaning>
<meaning> (重さを)「支える」&bc3; 「耐える」&bc1;</meaning>
<meaning> (もたらず) 「産む」&bc5;</meaning>
</replace>

```

2.8.6 memo*

編集管理用のメモテキストを格納する。 LeXML v.3 で追加。

```

<!ELEMENT memo (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST memo type CDATA #IMPLIED >

```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

2.8.7 data*

分類やソート等、データベース処理に供することのできる情報を格納する。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT data (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>  
<!ATTLIST data type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

第3章 インラインタグ

3.1 ラベル

3.1.1 label

地域ラベル。

```
<!ELEMENT alabel (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST alabel type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

sample:

```
<headword type="見出">a・gen・cie・ro</headword>
:
<meaning>(1) <alabel>キューバ</alabel> <alabel>メキシコ</alabel> 引っ越し業者 .
</meaning>
<meaning>(2) <alabel>アルゼンチン</alabel> <alabel>チリ</alabel> 質屋の主人 .
</meaning>
<meaning>(3) <alabel>アルゼンチン</alabel> 代理人, 代理業者; 宝くじなどの販売店主 [ 店
員 ] . </meaning>
```

3.1.2 glabel

文法ラベル。スピーチレベル。

```
<!ELEMENT glabel (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST glabel type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

属性値例: 前副、語層、語形、限定、等。

IEC62605 glabel

sample:

```
<headword>your</headword>
:
<meaning><pos>pron</pos> <glabel type="限定">you の所有格</glabel> <b>あなた
(が) の</b>; <glabel type="語層">話</glabel> 例の, いわゆる; <glabel type="語
形">Y-</glabel> 貴人への呼びかけ.</meaning>
```

3.1.3 slabel

専門用語ラベル、百科ラベル。 LeXML v.2.0 の guideword は廃止し、slabel に統合。

```
<!ELEMENT slabel (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST slabel type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。
IEC62605 slabel

3.2 発音・アクセント

3.2.1 accent

アクセント情報。見出し語または発音情報以外の個所で、アクセント・イントネーションについて記述する場合に使用する。

```
<!ELEMENT accent (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST accent type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

sample:

```
<headword type="表記">愛育</headword>
:
<meaning><pos>名・する</pos><accent>ア<b>イク</b></accent>子どもなどをかわいがって
育てること。</meaning>
```

3.2.2 pron*

インラインの発音 (pronunciation) 情報。見出し語の発音に関する情報は基本的に<headword type="発音">として head ブロック内に収める。

LeXML v.3 で追加。LeXML v.2.0 の hatsuon は廃止し、pron に統合。

```
<!ELEMENT pron (#PCDATA)>
<!ELEMENT hatsuon (#PCDATA)> <!--旧版互換用 -->
```

IEC62605 pronunciation

3.2.3 pha*

音標文字 (phonetic alphabet) に基づく発音情報。type 属性で IPA やピンイン等の種別を指定できるが、コンテンツによっては、以下の ipa、pinyin タグを直接適用してもよい。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT pha (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST pha type CDATA #IMPLIED >
```

属性: type (オプション) ipa、pinyin、respelling、us_respelling 等。

3.2.4 ipa*

国際音声記号 (International Phonetic Alphabet) に基づく発音情報。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT ipa (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample:

```
<headword type="見出">ABC<sup>1</sup></headword>
<headword type="発音"><ipa>&acute;ib&igrave;&length;s&iacute;&length;</ipa>
<b>エ</b>イビー<b>スイ</b>-</headword>
:
<meaning><POS>名</POS> (複 ABC's, ABCs <pron><ipa>-z</ipa></pron>) </meaning>
```

3.2.5 pinyin

(主に中国語コンテンツにおける) ピンイン (中国語国際音声記号)。

```
<!ELEMENT pinyin (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.3 品詞等

3.3.1 pos, POS*

品詞 (part of speech) 情報。一部、品詞以外の記号類をここに収めてもよい。通常は小文字のタグを使用する。記号の品詞は POS、記号の品詞は pos、と編集・メンテナンス用途で使い分ける事例あり。

LeXML v.3 で追加。LeXML v.2.0 の hinshi は廃止し、pos に統合。

```
<!ELEMENT pos (#PCDATA)>
<!ELEMENT POS (#PCDATA)>
<!ELEMENT hinshi (#PCDATA)> <!--旧版互換用 -->
```

IEC62605 psp(part of speech)

3.3.2 gender

性種別。辞書によっては pos/POS にまとめて格納してもよい。

```
<!ELEMENT gender (#PCDATA)>
```

IEC62605 gender

3.4 その他の辞書要素

3.4.1 abbr*

(見出し語が全綴の場合) 対応する略語 (abbreviation)。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT abbr (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample:

```
<headword>Lexicographical Extensible Markup Language</headword>
:
<meaning><abbr>LeXML</abbr>. 辞書・事典に特化した XML 仕様。</meaning>
```

3.4.2 article

定冠詞。見出し語中で記述し、配列上無視する定冠詞。

```
<!ELEMENT article (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample:

```
die Ar·go
<headword><article>die</article> <ud>A</ud>r·go</headword>
```

3.4.3 etym*

語源 (etymology) 情報。通常は<meaning type="語源">の形式で格納する。

LeXML v.3 で追加。LeXML v.2.0 の gogen は廃止し、etym に統合。

```
<!ELEMENT etym (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.4.4 ex

インラインの用例・句例。

```
<!ELEMENT ex (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST ex type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

3.4.5 fullform*

(見出し語が略語の場合) 対応する全綴形。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT fullform (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample:

```
<headword>LeXML</headword>
:
<meaning><fullform>Lexicographical Extensible Markup Language</fullfoorm>. 辞書・
事典に特化した XML 仕様。 </meaning>
```

3.4.6 inflec

語形変化 (inflection) 等。

LeXML v.1.12 までの plural や henka は廃止し、inflec に統合。

```
<!ELEMENT inflec (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

IEC62605 inflec

3.4.7 lang

言語 (原語) 種別。

```
<!ELEMENT lang (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

IEC62605 lang

3.4.8 note

注釈。

```
<!ELEMENT note (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST note type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別等を格納する。

3.4.9 pro-n*

成句・用例等に出現する代名詞 (pronoun) (において、強調解除する/イタリック表示する箇所)。LeXML v.3 で追加。LeXML v.2.0 の *pro-nv* は廃止し、*pro-n* と *pro-v* に分離。

```
<!ELEMENT pro-n (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample: _____

tàke one's chances 好機をとらえる。

```
<subheadword type="成句">t&agrave;ke <pro-n>one's</pro-n> ch&acute;nces
</subheadword>
<meaning>好機をとらえる.</meaning>
```

sample: _____

*sich*³ den Finger an der Tür abklemmen ドアに指をはさまれる

```
<example><pro-n>sich<sup>3</sup></pro-n> den Finger an der T&uuml;r abklemmen | ド
アに指をはさまれる</example>
```

3.4.10 pro-v*

成句・用例等に出現する代動詞 (pro-verb) (において、強調解除する/イタリック表示する箇所)。LeXML v.3 で追加。LeXML v.2.0 の *pro-nv* は廃止し、*pro-n* と *pro-v* に分離。

```
<!ELEMENT pro-v (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample: _____

còme clòse to dóing もう少しで...するところだ

```
<subheadword type="成句">c&ograve;me cl&ocute;se to <pro-v>d&ocute;</pro-v>ing
</subheadword>
<meaning>もう少しで...するところだ</meaning>
```

3.4.11 svoc*

文型。S:Subject(主語)、V:Verb(動詞)、O:Object(目的語)、C:Complement(補語) の記号を括る。LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT svoc (#PCDATA | sub)*>
```

3.4.12 variant

見出し語の異綴。

LeXML v.1.12 までの adeadword や betsu は廃止し、variant に統合。

```
<!ELEMENT variant (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST variant type CDATA #IMPLIED >
```

属性: type (オプション) 種別等を格納する。

IEC62605 variant

3.4.13 ymd*

生没年等。在位、在任等もこれに収める。

LeXML v.3 で追加。LeXML v.2.0 の seibotsu は廃止し、ymd に統合。

```
<!ELEMENT ymd (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST ymd type CDATA #IMPLIED >
```

3.4.14 cn, jp, kr, tw

(主に中国語コンテンツにおける) ユニコード指定の文字列の表示字体の指示。cn=中国語 (簡体字)、jp=日本語 (日本漢字)、kr=韓国語、tw=中国語 (繁体字)。

 ~ とするのが順当だが、出現頻度が高いコンテンツではメンテナンス効率を考慮してこれらのタグを使用した。外部提供時には、 ~ と変換してからの方がいいかもしれない。

lang 属性の値としては言語コード (zh-cn または zh-Hans, ja, ko, zh-tw または zh-Hant) が正しいが、上記の理由 (編集効率優先) で国コードを使用している。

```
<!ELEMENT cn (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT jp (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT kr (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT tw (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.4.15 ggk

(主に小学生向け学習辞書における) 学習漢字の配当学年。

```
<!ELEMENT ggk (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST ggk class CDATA #REQUIRED
              yomi CDATA #REQUIRED >
```

属性: class (オプション) 配当学年を格納する。

- class="1" 1年生で学習する漢字。漢字データをそのまま表示。
- class="2" 2年生で学習する漢字。1年生の場合、yomi 属性中のかなを表示。
- class="3" 3年生で学習する漢字。2年生以下の場合、yomi 属性中のかなを表示。
- class="4" 4年生で学習する漢字。3年生以下の場合、yomi 属性中のかなを表示。
- class="5" 5年生で学習する漢字。4年生以下の場合、yomi 属性中のかなを表示。
- class="6" 6年生で学習する漢字。5年生以下の場合、yomi 属性中のかなを表示。
- class="1x" 1年生で学習する漢字だが、無条件に yomi 属性中のかなを表示。
- class="2x" 2年生で学習する漢字だが、無条件に yomi 属性中のかなを表示。
- class="3x" 3年生で学習する漢字だが、無条件に yomi 属性中のかなを表示。
- class="4x" 4年生で学習する漢字だが、無条件に yomi 属性中のかなを表示。
- class="5x" 5年生で学習する漢字だが、無条件に yomi 属性中のかなを表示。
- class="6x" 6年生で学習する漢字だが、無条件に yomi 属性中のかなを表示。
- class="9" 小学校で習わない漢字。無条件に yomi 属性中のかなを表示。

属性: yomi (オプション) 漢字を表示しない場合に代替する「よみ」を格納する。

sample: ルビ切り替えの場合

```
<headword type="学年別表示"><ggk class="4" yomi="む">無</ggk><ggk class="2" yomi="
け い">形</ggk><ggk class="1" yomi="ぶ ん">文</ggk><ggk class="3" yomi="か">
化</ggk><ggk class="5" yomi="ざい">財</ggk></headword>
```

| | | | | | |
|-------------|--------------------------------------|-------------|-----------------------------------|-------------|----------------------------------|
| [1 年生の場合] | ^む けい ^{かざい} 無形文化財 | [2 年生の場合] | ^む ^{かざい} 無形文化財 | [3 年生の場合] | ^む ^{ざい} 無形文化財 |
| [4 年生の場合] | ^{ざい} 無形文化財 | [5 年生の場合] | ^{ざい} 無形文化財 | [6 年生の場合] | ^{ざい} 無形文化財 |

3.4.16 hs

(主にドイツ語コンテンツにおける)haben/sein 区別。

```
<!ELEMENT hs (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.4.17 kigo

季語。季語そのもの(以下の例では「青梅」)を括るのではなく、それが表す季節を括る。

```
<!ELEMENT kigo (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

sample:

```
<headword type="表記">青梅</headword>
:
<meaning>まだ熟していない青い梅の実。<kigo>夏</kigo></meaning>
```

3.5 文字装飾

3.5.1 b, B

ボールドまたは太字。通常は小文字のタグを使用する。出力上は通常のボールド指定で構わないが、編集・メンテナンス用途で使い分けたい場合等、大文字タグを許容。

```
<!ELEMENT b (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST b type CDATA #IMPLIED
            class CDATA #REQUIRED >
<!ELEMENT B (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST B type CDATA #IMPLIED
            class CDATA #REQUIRED >
```

属性: **type** (オプション)

属性: **class** (オプション)

IEC62605 b, font.bold

sample:

```
<headword>Al・cott</headword>
:
<meaning><POS>名</POS> <pos>固</pos> <B type="人名">Louisa May ~</B> オールコッ
ト<ymd type="生没年">1832 88</ymd>)《米国の女流作家》.</meaning>
```

3.5.2 big

文字サイズ(相対的に)大。非推奨/旧版互換用。

```
<!ELEMENT big (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.5.3 em, EM

ボールドイタリックまたは強調。通常は小文字のタグを使用する。通常のボールドイタリック指定で構わないが、媒体によって可能であればカラーで表示してもらいたい、といった場合など、大文字タグを許容。

```
<!ELEMENT em (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST em type CDATA #IMPLIED
             class CDATA #REQUIRED >
<!ELEMENT EM (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST EM type CDATA #IMPLIED
             class CDATA #REQUIRED >
```

属性: **type** (オプション)

属性: **class** (オプション)

IEC62605 em

3.5.4 i, I

イタリック体。通常は小文字のタグを使用する。

電子媒体によって“イタリック体”(ex. ‘a’, ‘g’)ではなく、ただの“斜体”(ex. ‘a’, ‘g’)となることがあるので注意すること。明示的に“斜体”を示したい場合は **oblq** を使用する。

```
<!ELEMENT i (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT I (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

属性: **type** (オプション)

属性: **class** (オプション)

IEC62605 i, font.italic

3.5.5 small

文字サイズ(相対的に)小。非推奨/旧版互換用。

```
<!ELEMENT small (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.5.6 sub, SUB

下添え文字。通常は小文字のタグを使用する。以下の **sup** の **sample** のように、横組における漢文の返り点を示すのに大文字タグを使用した実績がある。

```
<!ELEMENT sub (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT SUB (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

IEC62605 sub

3.5.7 sup, SUP

上添え文字。通常は小文字のタグを使用する。以下の sample のように、横組における漢文の送り仮名を示すのに大文字タグを使用した実績がある。

```
<!ELEMENT sup (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT SUP (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

IEC62605 sup

sample:

李下ニ不レ正^サ冠_レヲ

李 下^ニ不_レ正^サ_レ冠<SUP>
ヲ</SUP>

3.5.8 u, U

下線。通常は小文字のタグを使用する。

```
<!ELEMENT u (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST u type CDATA #IMPLIED
            class CDATA #REQUIRED >
<!ELEMENT U (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST U type CDATA #IMPLIED
            class CDATA #REQUIRED >
```

属性: type (オプション)

属性: class (オプション)

IEC62605 u, font.underline

3.5.9 fbox, FBOX

数字程度の文字列の枠囲み。パラグラフ単位の囲みには column 要素を使用する。通常は小文字のタグを使用する。

```
<!ELEMENT fbox (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT FBOX (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

3.5.10 light

文字装飾非適用。headword 等、要素単位でボールド指定がかかる範囲内で、その指定を除外したい箇所を囲む。太字指定内でナミ文字(細字)、イタリック指定内での立体など。

```
<!ELEMENT light (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```


3.5.11 oblique*

斜体 (oblique)。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT oblique (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

IEC62605 oblique, font.oblique

3.5.12 sc

スモールキャピタル。

```
<!ELEMENT sc (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
```

IEC62605 sc, font.small_caps

3.5.13 ud

下点。2ヶ以上の文字列についてもその中心に下点が1つ打たれることを示す。1文字単位の下点はエンティティ表現の方が簡単。

```
<!ELEMENT ud (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST ud type CDATA #IMPLIED
            class CDATA #REQUIRED >
```

属性: **type** (オプション)

属性: **class** (オプション)

sample: 下点をアクセントとして用いている辞書の例。

af·fi·zier·bar

```
<headword>af·fi·z<ud><u>ie</u></ud>r·b<u>a</u>r</headword>
```

3.6 組版

3.6.1 br, BR

強制改行。通常は小文字のタグを使用する。

```

<!ELEMENT br EMPTY>
<!ATTLIST br type CDATA #IMPLIED
             class CDATA #REQUIRED >
<!ELEMENT BR EMPTY>
<!ATTLIST BR type CDATA #IMPLIED
            class CDATA #REQUIRED >

```

属性: **type** (オプション)

属性: **class** (オプション)

IEC62605 br

3.6.2 nobr

分禁。顔文字での利用が多い。

```

<!ELEMENT nobr EMPTY>

```

sample:

```

<meaning><POS>名</POS> <POS>C</POS> <slabel>コンピュータ</slabel> 顔文字, エモーティ  

コン《電子メールなどで感情表現に用いる; 例 (右側を下にして見る) <nobr>:-)</nobr> (笑  

顔) <nobr>:-(</nobr> (泣顔)).</meaning>

```

3.6.3 ruby, rb, rt

ルビ。HTML5 で変更が生じているため調整の可能性がある。

```

<!ELEMENT ruby (rb,rt)>
<!ELEMENT rb (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ELEMENT rt (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>

```

IEC62605 ruby, rb, rt

sample:

```

ルビもじ文字
ルビ<ruby><rb>文字</rb><rt>もじ</rt></ruby>

```

3.6.4 mlg

割ルビ。電子媒体での割書きの実現は困難なので、実際には1行で()で括るケースが多い。

「multi line gloss」の略。JepaX からの借用。

```
<!ELEMENT mlg (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml; | mlgbr)*>
```

IEC62605 mlg

書籍での組版： これが割注^{わりちゅう}です。
データ格納法： これが割注<mlg>わり<mlgbr/>ちゅう</mlg>です。
電子媒体での出力例： これが割注(わりちゅう)です。

3.6.5 mlgbr*

割ルビ中の改行位置指定。mlgの説明中にある通り電子媒体での割書きは困難であるが、データを書籍組版に戻す場合など必要に応じて使用する。 LeXML v.3 で追加。

```
<!ELEMENT mlgbr EMPTY>
```

3.7 その他

3.7.1 a

外部 HTML ファイル参照。

```
<!ELEMENT a (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>  
<!ATTLIST a href    CDATA #REQUIRED  
          target CDATA #IMPLIED >
```

属性: href 参照先 URL を格納する。
属性: target (オプション)

3.7.2 img

画像ファイル呼び出し。

```
<!ELEMENT img EMPTY>  
<!ATTLIST img type        CDATA #IMPLIED  
          src            CDATA #REQUIRED  
          alt            CDATA #IMPLIED  
          title         CDATA #IMPLIED  
          mime-type CDATA #IMPLIED >
```

属性: type (オプション)
属性: src 画像ファイル名を格納する。
属性: alt (オプション)
属性: title (オプション)
属性: mime-type (オプション) MIME タイプを指定する。
 属性値例 ; image/gif、 image/jpeg、 image/png、 等。

IEC62605 object

3.7.3 gi

外字。 JepaX からの借用。

```
<!ELEMENT gi EMPTY>
<!ATTLIST gi set CDATA #IMPLIED
             name CDATA #REQUIRED
             alt CDATA "=" >
```

属性: **set** (オプション) 外字セット名を格納する。

属性: **name** 外字名称(コード)を格納する。

属性: **alt** (オプション) 外字非対応時の代替文字を格納する。

3.7.4 hidden

非表示/無視。コメントアウト<!-->と同じだが、当該箇所を XML として認識したい場合に使用。構造タグとしても利用可。

```
<!ELEMENT hidden (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST hidden type CDATA #IMPLIED
                 memo CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション) 種別を格納する。

属性: **memo** (オプション) 編集用メモを格納する。

3.7.5 ref, REF

他項目参照。通常は小文字のタグを使用する。

```
<!ELEMENT ref (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST ref type CDATA #IMPLIED
              refid IDREF #REQUIRED
              id IDREF #REQUIRED >
<!ELEMENT REF (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST REF type CDATA #IMPLIED
              refid IDREF #REQUIRED
              id IDREF #REQUIRED >
```

属性: **refid** 参照先の ID 番号を格納する。必須。

属性: **id** (オプション) 参照先の ID 番号を格納する。旧版互換用。

属性: **type** (オプション) 参照種別を格納する。

旧仕様での参照先 ID 番号を id 属性に格納するというルールは先行仕様 DicX から受け継いだもので、XML 仕様としては正しくないものでした。しかし、DicX 含め多数の辞書コンテンツがこの形式で XML 化され、現在でも多くの商品・サービスに供されているため、その変更のタイミングを逸してきた、というのが実際のところ。かつて id 属性を tid 属性 (target ID) に変更しようとしたところ、既存システム・フローとの互換性のため認められなかったという経験もあります。

LeXML3.0 では国際規約「IEC 62605 ed.2」との連動を図るため、ref タグの参照先 ID 番号を refid 属性に変更することとしました (ちなみに「IEC 62605 ed.1」では ref タグは規定されていませんでした)。

た・だ・し、上記の通り参照先 ID を id 属性に格納するコンテンツが多いこと、正規の XML としての形式よりも現行の受け入れ形式の継続利用を優先したいビジネスモデルも多いと予想されること、以上 2 点から、XML データの提供側・受入側の相互理解を前提として、旧仕様 (id 属性への格納) も許容することとします。現実的にはまだこちらが主流を成しそうな予感がします。XML はデータの受け渡しフォーマットの手段のひとつであり、XML ファイルとしてダイレクトに処理・サービスに供される場面はまだ少ないようです。適宜、前処理での属性名置換など対応に留意ください。

3.7.6 span

汎用のインライン要素。この要素自体に特別な意味はないが、インライン要素化することによって特定の文字列に属性を付与することが可能になる。

```
<!ELEMENT span (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST span type CDATA #IMPLIED
               class CDATA #REQUIRED >
```

属性: **type** (オプション)

属性: **class** (オプション)

IEC62605 span

3.7.7 spellout

見出し語等の重複部分省略を補う。出力時に当該データを回復するのか、“ ~ ”等の記号に置き換えるのか、定義しておく必要がある。

```
<!ELEMENT spellout (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST spellout type CDATA #IMPLIED
                   org CDATA #REQUIRED >
```

属性: **type** (オプション) 種別を格納する。

属性: **org** (オプション) 省略時の代替文字。

sample:

~**ly** 副 天文学的に，けたはずれに；ものすごく The car is ~ expensive. その車はけたはずれに高い

```
<subhead subid="ABC1234500#00010" type="派生">
<subheadword type="派生"><spellout org="~">as·tro·nom·i·cal
</spellout>·ly</subheadword>
<meaning><POS>副</POS>天文学的に，けたはずれに；ものすごく</meaning>
<example>The car is <spellout org="~">astronomically</spellout>
expensive. | その車はけたはずれに高い</example>
</subhead>
```

as·tro·nom·i·cal·ly 副 天文学的に，けたはずれに；ものすごく The car is *astronomically* expensive. その車はけたはずれに高い

3.7.8 url

インターネット URL とそれに関連する情報を格納する。

```
<!ELEMENT url (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST url type CDATA #IMPLIED >
```

属性: **type** (オプション)

3.7.9 xref, XREF

他項目参照保留。通常は小文字のタグを使用する。

```
<!ELEMENT xref (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST xref type CDATA #IMPLIED
id IDREF #IMPLIED >
<!ELEMENT XREF (#PCDATA | %inline.html; | %inline.lexml;)*>
<!ATTLIST XREF type CDATA #IMPLIED
id IDREF #IMPLIED >
```

属性: **id** (オプション) 参照先の ID 番号を格納する。参照先が見つからずに保留とすることが多いのだが。

属性: **type** (オプション) 参照種別を格納する。

3.8 LeXML v.3.0 で廃止したタグ

acc1, acc2 アクセント情報の補助。

alive seibotsu または onjob 内で使用する。存命・在位・在任中を示すフラグ。

byflow 縦組/横組での文字切り替え。

freq その単語の頻度・重要度情報。dic-item の rank 属性に統合。

gogen その単語の頻度・重要度情報。etym に統合。

goro1, goro2 学習系コンテンツでの“ 語呂合わせ ”情報。

guideword 分野別情報。slabel に統合。

hatsuon 発音情報。pron に変更。

hinshi 品詞情報。pos に変更。

horizontal 縦中横。

kumi 書籍版での追い込み時デリミタ等。

latex L^AT_EX ソース。

mn 語義番号。

ol 序列リスト。HTML タグの借用。

onjob 在位・在任年。ymd に変更。

pro-nv 代名詞・代動詞。pro-n、pro-v に分割。

ryaku 略語。abbr と fullform に分割。

seibotsu 生没年。ymd に変更。

split データを「アルファベット単位」または「五十音単位」に分割する。

spout 見出し語に相当する綴りの省略。spellout に統合。

url インターネットアドレス。

vnum, vn 動詞番号。

第4章 外字

LeXML 自体はユニコードに対応しているが、提供先の環境・システムによって“どこから外字とするか”の基準が異なるため、JIS 第一水準・第二水準および ASCII コードを基準としておくのが現実的。上記以外の文字の表現には、以下の方法を用いる。

4.1 HTML のエンティティ定義を使用する

HTML4.0 と XHTML1.0 の仕様でエンティティ定義されている欧文文字については、これを使用する。

| | |
|--------------------|---|
| Latin-1 characters | http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml-lat1.ent |
| Special characters | http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml-special.ent |
| Symbols | http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml-symbol.ent |

4.2 LeXML で独自に拡張定義した実体参照を使用する

上記のものも含め、漢字以外でよく使う文字については、独自にエンティティを定義して、これを使用する。

PDF 版 <http://www.d-assist.com/lexmlentity.pdf>

4.3 ユニコードの数値参照を使用する

4.4 gi 要素を使用する

gi タグで固有の名称・固有コードを指定する。別途、対応した外字画像データ、字形サンプル等を用意する必要がある。

属性: set 外字コードセットの名称。

属性: name 上記コードセットでのコード番号。

第5章 LeXML エンティティ

LeXML エンティティは ascii/JIS 外文字を網羅的体系的に規定していくものではない。原則、“実際にどこかの辞書に出現した”文字を必要に応じて採録してきた。そのため、このエンティティのリストは随時更新されることになる。実体参照形式での名称が必要になったもの、仮名称を与えたものがあれば、nagata@d-assist.com 宛にご連絡頂きたい。これもまた随時リストに加えていく予定である。

LeXML エンティティにおける大まかな実体参照の記述形式は以下のルールに沿う。

- 文字に変音記号を付与する場合は「&(当該文字)(変音記号名);」で記述する。当該文字が1文字で記述できない場合は「&(当該文字)_(変音記号名);」のように「_」で繋ぐ(一部例外あり)。
- 変音記号の追加ではなく、文字の異形、回転、その他の文字装飾の場合も、原則この方式に従う。
- 「 \grave{A} 」(turned v)のように一般的な呼称が存在するものについても、原則「&(親文字)(変音変形パターン名);」の形式に統一する(&vturn;)

主要な変音記号は以下の通り。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|
| ´ | &acute; <small>HTML</small> U+00B4 ACUTE ACCENT | ^ | &circ; <small>HTML</small> U+02C6 MODIFIER LETTER CIRCUMFLEX ACCENT | ˇ | &caron; U+02C7 CARON =∧ |
| ` | &grave; U+0060 GRAVE ACCENT | ~ | &tilde; <small>HTML</small> U+02DC SMALL TILDE | · | &odot; U+02D9 DOT ABOVE |
| ¨ | &uml; <small>HTML</small> U+00A8 DIAERESIS | ˘ | &breve; U+02D8 BREVE | ˆ | &arch; |
| - | &macr; <small>HTML</small> U+00AF MACRON | | | ¸ | &cedil; <small>HTML</small> U+00B8 CEDILLA |

5.1 アルファベット

A a

Á **Á** HTML
U+00C1 LATIN CAPITAL LETTER A WITH ACUTE

&A_accentacute;
特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&A_latinacute;
特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。 = **&A_strongacute;**

À **À** [HTML]
U+00C0 LATIN CAPITAL LETTER A WITH GRAVE

&A_accentgrave;
特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&A_latingrave;
特に縦りアクセントを区別したい場合にのみ使用。 = **&A_stronggrave;**

Â **Â** [HTML]
U+00C2 LATIN CAPITAL LETTER A WITH CIRCUMFLEX

Ã **Ã** [HTML]
U+00C3 LATIN CAPITAL LETTER A WITH TILDE

Ä **Ä** [HTML]
U+00C4 LATIN CAPITAL LETTER A WITH DIAERESIS

Ā **Ā**
U+0100 LATIN CAPITAL LETTER A WITH MACRON

Ă **Ă**
U+0102 LATIN CAPITAL LETTER A WITH BREVE

Ą **&Acaron;**
U+01CD LATIN CAPITAL LETTER A WITH CARON

Ȧ **&Aodot;**
U+0226 LATIN CAPITAL LETTER A WITH DOT ABOVE

Ȧ̇ **&Asubdot;**
U+1EA0 LATIN CAPITAL LETTER A WITH DOT ABOVE

Å **Å** [HTML]
U+00C5 LATIN CAPITAL LETTER A WITH RING ABOVE

Á **&Aacr_acute;**
=**&Aacr1;**

Ǡ **&Asubbar;**

Ȫ **&Ainv;**
U+2C6F LATIN CAPITAL LETTER TURNED A

á **á** [HTML]
U+00E1 LATIN SMALL LETTER A WITH ACUTE

&a_accentacute;
特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&a_latinacute;
特に縦りアクセントを区別したい場合にのみ使用。 = **&a_strongacute;**

à **à** [HTML]
U+00E0 LATIN SMALL LETTER A WITH GRAVE

&a_accentgrave;
特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&a_latingrave;
特に縦りアクセントを区別したい場合にのみ使用。 = **&a_stronggrave;**

â **â** [HTML]
U+00E2 LATIN SMALL LETTER A WITH CIRCUMFLEX

ã **ã** [HTML]
U+00E3 LATIN SMALL LETTER A WITH TILDE

ä **ä** [HTML]
U+00E4 LATIN SMALL LETTER A WITH DIAERESIS

ā **ā**
U+0101 LATIN SMALL LETTER A WITH MACRON

ă **ă**
U+0103 LATIN SMALL LETTER A WITH BREVE

ą **&acaron;**
U+01CE LATIN SMALL LETTER A WITH CARON

ȧ **&aodot;**
U+0227 LATIN SMALL LETTER A WITH DOT ABOVE

ȧ̇ **&asubdot;**
U+1EA1 LATIN SMALL LETTER A WITH DOT BELOW

å **å** [HTML]
U+00E5 LATIN SMALL LETTER A WITH RING ABOVE

á̇ **ã_acute;**
=**ã1;**

ǡ **ä_acute;**
=**ä1;**

Ȫ̄ **&amacr_acute;**
=**&amacr1;**

à̇ **&amacr_grave;**
=**&amacr2;**

ă̄ **&amacr_breve;**

ȧ̇̄ **á_subdot;**
=**&subdot1;**

| | |
|---|---|
| â | &acirc_subdot; U+1EAD LATIN SMALL LETTER A WITH CIRCUMFLEX AND DOT BELOW |
| ą | &acedil; |
| ą | &ahook; U+1D8F LATIN SMALL LETTER A WITH RETROFLEX HOOK |
| ą | &apolhook; U+0105 LATIN SMALL LETTER A WITH OGONEK = &aogonek; |
| á | &awacute; |
| ā | &asubbar; |
| ā | &asubring; U+1E01 LATIN SMALL LETTER A WITH RING BELOW |
| ă | &asubacute; |
| ȧ | &aturn; U+0250 LATIN SMALL LETTER TURNED A |
| ȧ | &aturn_tilde; |
| ȧ | &aturn_tilde1; |

Æ æ

| | |
|---|---|
| Æ | &AElig; HTML U+00C6 LATIN CAPITAL LETTER AE |
| æ | &aelig; HTML U+00E6 LATIN SMALL LETTER AE |
| æ | &aeacute; U+01FD LATIN SMALL LETTER AE WITH ACUTE = &ae_acute; |
| æ | &aegrave; = &ae_grave; |
| æ | &aetilde; = &aelig_tilde; |
| æ | &aemacr; U+01E3 LATIN SMALL LETTER AE WITH MACRON |

B b

| | |
|---|--|
| Ḃ | &Bacute; |
| Ḃ | &Bgrave; |
| Ḃ | &Bmacr; |
| Ḃ | &Bsubdot; U+1E04 LATIN CAPITAL LETTER B WITH DOT BELOW |
| ḃ | &bacute; |
| ḃ | &bgrave; |
| ḃ | &bmacr; |
| ḃ | &bsubring; |
| ḃ | &bsubdot; U+1E05 LATIN SMALL LETTER B WITH DOT BELOW |
| ḃ | &bsubbar; U+1E07 LATIN SMALL LETTER B WITH LINE BELOW |

C c

| | |
|---|--|
| Ć | &Cacute; U+0106 LATIN CAPITAL LETTER C WITH ACUTE |
| Ć | &Cgrave; |
| Ć | &Ccedil; HTML U+00C7 LATIN CAPITAL LETTER C WITH CEDILLA |
| Ĉ | &Codot; U+010A LATIN CAPITAL LETTER C WITH DOT ABOVE |
| Č | &Ccaron; U+010C LATIN CAPITAL LETTER C WITH CARON |
| Ċ | &Csubdot; |
| ć | &cacute; U+0107 LATIN SMALL LETTER C WITH ACUTE |

| | |
|---|---|
| Ĉ | &cgrave; |
| Ċ | &ccirc; U+0109 LATIN SMALL LETTER C WITH CIRCUMFLEX |
| Ç | &ccedil; <small>HTML</small> U+00E7 LATIN SMALL LETTER C WITH CEDILLA |
| Ĉ | &ccedil_grave; |
| Ċ | &ccedil_tilde; |
| Ċ | &codot; U+010B LATIN SMALL LETTER C WITH DOT ABOVE |
| Ĉ | &cmacr; |
| Ċ | &cbreve; |
| Ċ | &ccaron; U+010D LATIN SMALL LETTER C WITH CARON |
| Ĉ | &csubbar; |
| Ĉ | &ccurl; U+0255 LATIN SMALL LETTER C WITH CURL |

D d

| | |
|---|--|
| Đ | &Dacute; |
| Đ | &Dgrave; |
| Ď | &Dcirc; |
| Ḑ | &Dsubdot; U+1E0C LATIN CAPITAL LETTER D WITH DOT BELOW |
| đ | &dacute; |
| ḑ | &dgrave; |
| Ḓ | &dcross; U+0111 LATIN SMALL LETTER D WITH STROKE |
| Ḕ | &dbar; |

| | |
|---|---|
| ḏ | &dmacr; |
| Ḑ | &dsubdot; U+1E0D LATIN SMALL LETTER D WITH DOT BELOW &dunderdot; |
| ḑ | &dsubbar; U+1E0F LATIN SMALL LETTER D WITH LINE BELOW |
| Ḓ | &dsubring; |

E e

| | |
|---|---|
| É | &Eacute; <small>HTML</small> U+00C9 LATIN CAPITAL LETTER E WITH ACUTE |
| | &E_accentacute; 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。 |
| | &E_latinacute; 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。= &E_strongacute; ; |
| È | &Egrave; <small>HTML</small> U+00C8 LATIN CAPITAL LETTER E WITH GRAVE |
| | &E_accentgrave; 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。 |
| | &E_latingrave; 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。= &E_stronggrave; ; |
| Ê | &Ecirc; <small>HTML</small> U+00CA LATIN CAPITAL LETTER E WITH CIRCUMFLEX |
| Ë | &Etilde; U+1EBC LATIN CAPITAL LETTER E WITH TILDE |
| Ë | &Euml; <small>HTML</small> U+00CB LATIN CAPITAL LETTER E WITH DIAERESIS |
| Ē | &Emacr; U+0112 LATIN CAPITAL LETTER E WITH MACRON |
| Ĕ | &Ebreve; U+0114 LATIN CAPITAL LETTER E WITH BREVE |

Ě **Ě**
 U+011A LATIN CAPITAL LETTER E WITH CARON

Ě **&Eodot;**
 U+0116 LATIN CAPITAL LETTER E WITH DOT ABOVE

Ě **&Emacr_acute;**
 U+1E16 LATIN CAPITAL LETTER E WITH MACRON AND ACUTE =**&Emacr1;**

Ě **&Ering;**

Ě **&Esubbar;**

é **é**; **HTML**
 U+00E9 LATIN SMALL LETTER E WITH ACUTE

&e_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&e_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&e_strongacute;**

è **è**; **HTML**
 U+00E8 LATIN SMALL LETTER E WITH GRAVE

&e_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&e_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&e_stronggrave;**

ê **ê**; **HTML**
 U+00EA LATIN SMALL LETTER E WITH CIRCUMFLEX

ẽ **&etilde;**
 U+1EBD LATIN SMALL LETTER E WITH TILDE

ë **ë**; **HTML**
 U+00EB LATIN SMALL LETTER E WITH DIAERESIS

ē **ē**
 U+0113 LATIN SMALL LETTER E WITH MACRON

ĕ **&ebreve;**
 U+0115 LATIN SMALL LETTER E WITH BREVE

ě **ě**
 U+011B LATIN SMALL LETTER E WITH CARON

ė **&eodot;**
 U+0117 LATIN SMALL LETTER E WITH DOT ABOVE

ė **&esubdot;**
 U+1EB9 LATIN SMALL LETTER E WITH DOT BELOW

ê **ê_acute;**
 U+1EBF LATIN SMALL LETTER E WITH CIRCUMFLEX AND ACUTE =**ê1;**

è **ê_grave;**
 U+1EC1 LATIN SMALL LETTER E WITH CIRCUMFLEX AND GRAVE

ē **ê_macr;**

ě **ê_caron;**

ê **ê_subdot;**
 U+1EC7 LATIN SMALL LETTER E WITH CIRCUMFLEX AND DOT BELOW

ẽ **&etilde_acute;**
 =**&etilde1;**

ē **&emacr_acute;**
 U+1E17 LATIN SMALL LETTER E WITH MACRON AND ACUTE =**&emacr1;**

è **&emacr_grave;**
 U+1E15 LATIN SMALL LETTER E WITH MACRON AND GRAVE =**&emacr2;**

ẽ **&emacr_tilde;**

ě **&emacr_caron;**

ē **&emacr_breve;**

ē **&emacr_polhook;**

ê **&earch;**
 U+0207 LATIN SMALL LETTER E WITH INVERTED BREVE

ë **&ecedil;**
 U+0229 LATIN SMALL LETTER E WITH CEDILLA

ę **&epolhook;**
 U+0119 LATIN SMALL LETTER E WITH OGONEK =**&eogonek;**

ē **&esubacute;**

ē **&esubbar;**

F f

| | |
|----|---|
| Ŕ | &Facute; |
| Ŗ | &Fgrave; |
| ƒ̄ | &Fmacr; |
| Ḟ | &Fsubdot; |
| F̄ | &Fsubbar; |
| ƒ̂ | &facute; |
| ƒ̀ | &fgrave; |
| ƒ̄ | &fmacr; |
| f | &fnof; <small>HTML U+0192 LATIN SMALL LETTER F WITH HOOK</small> |

G g

| | |
|----|--|
| Ĝ | &Gacute; U+01F4 LATIN CAPITAL LETTER G WITH ACUTE |
| Ġ | &Ggrave; |
| Ġ̇ | &Godot; U+0120 LATIN CAPITAL LETTER G WITH DOT ABOVE |
| Ġ | &Gsubdot; |
| ğ̂ | &gacute; U+01F5 LATIN SMALL LETTER G WITH ACUTE |
| ğ̀ | &ggrave; |
| ğ̂ | &gcirc; U+011D LATIN SMALL LETTER G WITH CIRCUMFLEX |
| ğ̄ | &gmacr; U+1E21 LATIN SMALL LETTER G WITH MACRON |

| | |
|-----|--|
| ğ̄̇ | &gmacr_breve; |
| ğ̄̈ | &gbreve; U+011F LATIN SMALL LETTER G WITH BREVE |
| ğ̄̃ | &gcaron; U+01E7 LATIN SMALL LETTER G WITH CARON |
| ğ̄̇ | &godot; U+0121 LATIN SMALL LETTER G WITH DOT ABOVE |
| ḡ | &gsubbar; |

H h

| | |
|-----|---|
| Ĥ | &Hacute; |
| Ħ | &Hgrave; |
| Ĥ̂ | &Hcirc; U+0124 LATIN CAPITAL LETTER H WITH CIRCUMFLEX |
| Ḣ | &Hsubdot; U+1E24 LATIN CAPITAL LETTER H WITH DOT BELOW &Hunderdot; |
| H̆ | &Hcedil; U+1E28 LATIN CAPITAL LETTER H WITH CEDILLA |
| H̄ | &Hcross; U+0126 LATIN CAPITAL LETTER H WITH STROKE |
| H̆̈ | &Hsubbreve; U+1E2A LATIN CAPITAL LETTER H WITH BREVE BELOW |
| ĥ | &hacute; |
| h̀ | &hgrave; |
| ĥ | &hcirc; U+0125 LATIN SMALL LETTER H WITH CIRCUMFLEX |
| h̄ | &hmacr; |
| ḣ | &hsubdot; U+1E25 LATIN SMALL LETTER H WITH DOT BELOW &hunderdot; |

h **&hcedil;**
 U+1E29 LATIN SMALL LETTER H WITH CEDILLA
h̄ **&hcross;**
 U+0127 LATIN SMALL LETTER H WITH STROKE
h̆ **&hhookt;**
 U+0266 LATIN SMALL LETTER H WITH HOOK
ḣ **&hsubbar;**
 U+1E96 LATIN SMALL LETTER H WITH LINE BELOW
ḧ **&hsubbreve;**
h̉ **&hsubcaron;**
h̊ **&hturn;**
 U+0265 LATIN SMALL LETTER TURNED H
h̋ **&hturn_subdot;**

I i

Í **Í** HTML
 U+00CD LATIN CAPITAL LETTER I WITH ACUTE
&I_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。
&I_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&I_strongacute;**
Ì **Ì** HTML
 U+00CC LATIN CAPITAL LETTER I WITH GRAVE
&I_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。
&I_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&I_stronggrave;**
Î **Î** HTML
 U+00CE LATIN CAPITAL LETTER I WITH CIRCUMFLEX
Ï **Ĩ**
 U+0128 LATIN CAPITAL LETTER I WITH TILDE

İ **Ï** HTML
 U+00CF LATIN CAPITAL LETTER I WITH DIAERESIS
Ī **Ī**
 U+012A LATIN CAPITAL LETTER I WITH MACRON
Ĭ **&Ibreve;**
 U+012C LATIN CAPITAL LETTER I WITH BREVE
Ï **&Icaron;**
 U+01CF LATIN CAPITAL LETTER I WITH CARON
İ̇ **&Iodot;**
 U+0130 LATIN CAPITAL LETTER I WITH DOT ABOVE **&Iupperdot;**
İ̈ **&Isubdot;**
 U+1ECA LATIN CAPITAL LETTER I WITH DOT BELOW
Ĭ̇ **&Imacr_acute;**
 =**&Imacr1;**
Ī̇ **&Isubbar;**
İ̄ **&Ibar;**
 U+0197
ı **&Isc;**
 U+026A *sc = small capital
İ̇ **&Isc_acute;**
ı̇ **&Isc_grave;**
ı̈ **í** HTML
 U+00ED LATIN SMALL LETTER I WITH ACUTE
&i_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。
&i_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&i_strongacute;**
ı̄ **ì** HTML
 U+00EC LATIN SMALL LETTER I WITH GRAVE
&i_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。
&i_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&i_stronggrave;**

Î **î** [HTML]
 U+00EE LATIN SMALL LETTER I WITH CIRCUMFLEX

Ĩ **ĩ**
 U+0129 LATIN SMALL LETTER I WITH TILDE

ï **ï** [HTML]
 U+00EF LATIN SMALL LETTER I WITH DIAERESIS

Ī **ī**
 U+012B LATIN SMALL LETTER I WITH MACRON

İ **&ibreve;**
 U+012D LATIN SMALL LETTER I WITH BREVE

Ĭ **&icaron;**
 U+01D0 LATIN SMALL LETTER I WITH CARON

İ̇ **&isubdot;**
 U+1ECB LATIN SMALL LETTER I WITH DOT BELOW

ı **&idotless;**
 U+0131 LATIN SMALL LETTER DOTLESS I

Î **î_acute;**
 =î1;

Ï **ï_acute;**
 U+1E2F LATIN SMALL LETTER I WITH DIAERESIS AND ACUTE =ï1;

İ̃ **&itilde_acute;**
 =&itilde1;

Ī̃ **&imacr_acute;**
 =&imacr1;

Ī̄ **&imacr_tilde;**

Ī̂ **&imacr_caron;**

Ī̇ **&imacr_breve;**

İ̆ **&ibar;**
 U+0268

İ̇ **&ibar_acute;**
 =&ibar1;

İ̈ **&ibar_grave;**
 =&ibar2;

İ̂ **&ibar_caron;**

İ̇ **&islash;**

Í **&islash_acute;**
 =&islash1;

ÿ **&islash_caron;**

ı̇ **&isubacute;**

ı̂ **&isubcirc;**

ı̄ **&isubbar;**

ı̆ **&isubarch;**

J j

Ĵ **&Jacute;**

Ķ **&Jgrave;**

Ĵ **&Jcaron;**

ĵ **&jacute;**

ĵ **&jcaron;**
 U+01F0 LATIN SMALL LETTER J WITH CARON

ĵ **&jmacr;**

ĵ **&jcurl;**
 U+029D LATIN SMALL LETTER J WITH CROSSED-TAIL

K k

Ķ **&Kacute;**
 U+1E30 LATIN CAPITAL LETTER K WITH ACUTE

Ķ **&Kgrave;**

Ķ **&Kmacr;**

Ķ̇ **&Ksubdot;**
 U+1E32 LATIN CAPITAL LETTER K WITH DOT BELOW

| | |
|----|---|
| ƙ | &kacute; U+1E31 LATIN SMALL LETTER K WITH ACUTE |
| ķ | &kgrave; |
| ƙ̇ | &ksubdot; U+1E33 LATIN SMALL LETTER K WITH DOT BELOW &kunderdot; |
| ƙ̄ | &ksubbar; U+1E35 LATIN SMALL LETTER K WITH LINE BELOW |

L l

| | |
|------|--|
| Ɑ | &Lrev; |
| Ĺ | &Lacute; U+0139 LATIN CAPITAL LETTER L WITH ACUTE |
| Ľ | &Lgrave; |
| Ł | &Lslash; U+0141 LATIN CAPITAL LETTER L WITH STROKE |
| ĺ | &lacute; U+013A LATIN SMALL LETTER L WITH ACUTE |
| ļ | &lgrave; |
| ł | &lcedil; U+013C LATIN SMALL LETTER L WITH CEDILLA |
| ł̃ | &ltilde; U+026B LATIN SMALL LETTER L WITH MIDDLE TILDE |
| ł̣ | &lbelt; U+026C LATIN SMALL LETTER L WITH BELT |
| ł̸ | &lslash; U+0142 LATIN SMALL LETTER L WITH STROKE |
| ł̇ | &lsubdot; U+1E37 LATIN SMALL LETTER L WITH DOT BELOW |
| ł̣̇ | &lsubuml; |
| ł̣̣̇ | &lsubring; |

M m

| | |
|---|--|
| Ŭ | &Macute; U+1E3E LATIN CAPITAL LETTER M WITH ACUTE |
| Ů | &Mgrave; |
| Ű | &Mmacr; |
| Ṁ | &Msubdot; U+1E42 LATIN CAPITAL LETTER M WITH DOT BELOW |
| ṁ | &macute; U+1E3F LATIN SMALL LETTER M WITH ACUTE |
| Ṃ | &mgrave; |
| ṃ | &mcaron; |
| Ṅ | &mtilde; |
| ṅ | &mring; |
| Ṇ | &Msubring; |
| ṇ | &mtail; U+0271 LATIN SMALL LETTER M WITH HOOK |
| Ṉ | &mslash; |
| ṉ | &mturn; U+026F LATIN SMALL LETTER TURNED M |

N n

Ñ **Ń**
 U+0143 LATIN CAPITAL LETTER N WITH ACUTE

Ñ **&Ngrave;**
 U+01F8 LATIN CAPITAL LETTER N WITH GRAVE

Ñ **Ñ** HTML
 U+00D1 LATIN CAPITAL LETTER N WITH TILDE

Ñ **&Nmacr;**

Ñ **Ň**
 U+0147 LATIN CAPITAL LETTER N WITH CARON

Ñ **&Nsubdot;**
 U+1E46 LATIN CAPITAL LETTER N WITH DOT BELOW

ñ **ń**
 U+0144 LATIN SMALL LETTER N WITH ACUTE

&n_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&n_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&n_strongacute;**

ñ **&ngrave;**
 U+01F9 LATIN SMALL LETTER N WITH GRAVE

&n_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&n_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&n_stronggrave;**

ñ **ñ** HTML
 U+00F1 LATIN SMALL LETTER N WITH TILDE

ñ **&nmacr;**

ñ **&nbreve;**

ñ **ň**
 U+0148 LATIN SMALL LETTER N WITH CARON

ñ **&nodot;**
 U+1E45 LATIN SMALL LETTER N WITH DOT ABOVE **&nupperdot;**

ñ **&nsubdot;**
 U+1E47 LATIN SMALL LETTER N WITH DOT BELOW

ñ **&nmacr_acute;**
 =**&nmacr1;**

ñ **ņ**
 U+0146 LATIN SMALL LETTER N WITH CEDILLA

ñ **&nltail;**
 U+0272 LATIN SMALL LETTER N WITH LEFT HOOK

ñ **&nsubbar;**
 U+1E49 LATIN SMALL LETTER N WITH LINE BELOW

ñ **&nsubring;**

ñ **&ntail;**
 U+0273 LATIN SMALL LETTER N WITH RETROFLEX HOOK

O o

Ó **Ó** HTML
 U+00D3 LATIN CAPITAL LETTER O WITH ACUTE

&O_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&O_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&O_strongacute;**

Ò **Ò** HTML
 U+00D2 LATIN CAPITAL LETTER O WITH GRAVE

&O_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&O_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&O_stronggrave;**

Ô **Ô** HTML
 U+00D4 LATIN CAPITAL LETTER O WITH CIRCUMFLEX

Ö **Ö** HTML
 U+00D6 LATIN CAPITAL LETTER O WITH TILDE

Õ **Õ** HTML
 U+00D5 LATIN CAPITAL LETTER O WITH DIAERESIS

Ō **Ō**
 U+014C LATIN CAPITAL LETTER O WITH MACRON

Ö **&Obreve;**
 U+014E LATIN CAPITAL LETTER O WITH BREVE

Ȫ **&Ocaron;**
 U+01D1 LATIN CAPITAL LETTER O WITH CARON

Ȫ̇ **&Osubdot;**
 U+1ECC LATIN CAPITAL LETTER O WITH DOT BELOW

Ø **Ø** HTML
 U+00D8 LATIN CAPITAL LETTER O WITH STROKE

Ȫ̂ **&Omacr_acute;**
 U+1E52 =**&Omacr1;**

Ö̂ **&Owacute;**
 U+0150 LATIN CAPITAL LETTER O WITH DOUBLE ACUTE

Ȫ̄ **&Osubbar;**

Ó **ó** HTML
 U+00F3 LATIN SMALL LETTER O WITH ACUTE

&o_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&o_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&o_strongacute;**

ò **ò** HTML
 U+00F2 LATIN SMALL LETTER O WITH GRAVE

&o_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&o_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&o_stronggrave;**

ô **ô** HTML
 U+00F4 LATIN SMALL LETTER O WITH CIRCUMFLEX

ö **ö** HTML
 U+00F6 LATIN SMALL LETTER O WITH TILDE

õ **õ** HTML
 U+00F5 LATIN SMALL LETTER O WITH DIAERESIS

ō **ō**
 U+014D LATIN SMALL LETTER O WITH MACRON

ö **&obreve;**
 U+014F LATIN SMALL LETTER O WITH BREVE

ȫ **&ocaron;**
 U+01D2 LATIN SMALL LETTER O WITH CARON

ȫ̇ **&oodot;**
 U+022F LATIN SMALL LETTER O WITH DOT ABOVE **&oupperdot;**

ȫ̇ **&osubdot;**
 U+1ECD LATIN SMALL LETTER O WITH DOT BELOW

ø **ø** HTML
 U+00F8 LATIN SMALL LETTER O WITH STROKE

ȫ̂ **&omacr_acute;**
 U+1E53 LATIN SMALL LETTER O WITH MACRON AND ACUTE =**&omacr1;**

ö̂ **&omacr_grave;**
 U+1E51 LATIN SMALL LETTER O WITH MACRON AND GRAVE =**&omacr2;**

ȫ̂ **&omacr_circ;**

ȫ̂ **&omacr_caron;**

ȫ̂ **&omacr_breve;**

ȫ̇ **&opolhook;**
 U+01EB LATIN SMALL LETTER O WITH OGONEK

ø̂ **ø_acute;**
 U+01FF LATIN SMALL LETTER O WITH STROKE AND ACUTE =**ø1;**

ø̂ **ø_grave;**
 =**ø2;**

ø̂ **ø_tilde;**

ȫ̇ **&osubacute;**

ȫ̇ **&osubbar;**

ò̇ **ò_subdot;**
 =**&osubdot2;**

ô̇ **ô_subdot;**
 U+1ED9 LATIN SMALL LETTER O WITH CIRCUMFLEX AND DOT BELOW

Ō **õ_acute;**
 U+1E4D LATIN SMALL LETTER O WITH TILDE
 AND ACUTE =**õ1;**
Œ **&ocedil;**
Ô **ö_acute;**
 =**ö1;**
Û **ö_grave;**
 =**ö2;**
Ɔ **&obar;**
 U+0275
Ö **&owacute;**
 U+0151 LATIN SMALL LETTER O WITH
 DOUBLE ACUTE

Œ œ

Œ **Œ** HTML
 U+0152 LATIN CAPITAL LIGATURE OE /
 U+0276(IPA)
œ **œ** HTML
 U+0153
œ́ **&oeacute;**
œ̀ **&oegrave;**
œ̃ **&oetilde;**
œ́ **&oetilde_acute;**
 =**&oetilde1;**
œ̄ **&oemacr;**

P p

Ꝁ **&Pacute;**
 U+1E54 LATIN CAPITAL LETTER P WITH
 ACUTE
ꝁ **&Pgrave;**
Ꝃ **&Pmacr;**
ꝃ **&Psubdot;**

Ꝁ **&pacute;**
 U+1E55 LATIN SMALL LETTER P WITH ACUTE
ꝁ **&pgrave;**
Ꝃ **&pcirc;**
ꝃ **&pmacr;**
Ꝅ **&psubbar;**
ꝅ **&psubdot;**

Q q

Ꝇ **&Qacute;**
ꝇ **&Qgrave;**
Ꝉ **&qacute;**
ꝉ **&qgrave;**
Ꝋ **&qmacr;**
ꝋ **&qodot;**

R r

Ꝍ **Ŕ**
 U+0154 LATIN CAPITAL LETTER R WITH
 ACUTE
ꝍ **&Rgrave;**
Ꝏ **Ř**
 U+0158 LATIN CAPITAL LETTER R WITH
 CARON
ꝏ **&Rsubdot;**
 U+1E5A LATIN CAPITAL LETTER R WITH DOT
 BELOW
Ꝑ **&Rinv;**
 U+0281 LATIN LETTER SMALL CAPITAL
 INVERTED R

| | |
|---|--|
| Ɑ | &Rrev; U+1D19 LATIN LETTER SMALL CAPITAL REVERSED R |
| ŕ | &racute; U+0155 LATIN SMALL LETTER R WITH ACUTE |
| ṙ | &rgrave; |
| ŕ | &rcirc; |
| ṙ | &rtilde; |
| ṙ | &rmacr; |
| ṙ | &rcaron; U+0159 LATIN SMALL LETTER R WITH CARON |
| ṙ | &rbreve; |
| ṙ | &rodot; U+1E59 LATIN SMALL LETTER R WITH DOT ABOVE |
| ṙ | &rsubdot_macr; U+1E5D LATIN SMALL LETTER R WITH DOT BELOW AND MACRON |
| ṙ | &rsubdot; U+1E5B LATIN SMALL LETTER R WITH DOT BELOW |
| ṙ | &rsubbar; U+1E5F LATIN CAPITAL LETTER R WITH LINE BELOW |
| ṙ | &rsubuml; |
| ṙ | &rsubring; |
| ṙ | &rlongleg; U+027C LATIN SMALL LETTER R WITH LONG LEG |

S s

| | |
|---|---|
| Ś | &Sacute; U+015A LATIN CAPITAL LETTER S WITH ACUTE |
| Ŝ | &Sgrave; |
| Ś | &Scedil; U+015E LATIN CAPITAL LETTER S WITH CEDILLA |

| | |
|---|---|
| Ŝ | &Scirc; U+015C LATIN CAPITAL LETTER S WITH CIRCUMFLEX |
| Š | &Scaron; <small>HTML</small> U+0160 LATIN CAPITAL LETTER S WITH CARON |
| Š | &Ssubdot; U+1E62 LATIN CAPITAL LETTER S WITH DOT BELOW &Sunderdot; |
| Š | &sacute; U+015B LATIN SMALL LETTER S WITH ACUTE |
| | &s_accentacute; 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。 |
| | &s_latinacute; 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。= &s_strongacute; |
| Š | &sgrave; |
| | &s_accentgrave; 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。 |
| | &s_latingrave; 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。= &s_stronggrave; |
| Š | &scedil; U+015F LATIN SMALL LETTER S WITH CEDILLA |
| Š | &smacr; |
| Š | &smacr_acute; = &smacr1; |
| Š | &sbreve; |
| Š | &scaron; <small>HTML</small> U+0161 LATIN SMALL LETTER S WITH CARON |
| Š | &ssubdot_caron; |
| Š | &ssubbar; |
| Š | &ssubdot; U+1E63 LATIN SMALL LETTER S WITH DOT BELOW |
| Š | &ssubring; |
| Š | &ssubacute; |

§ **&stail;**
U+0282

T t

Ť **&Tacute;**

Ṭ **&Tgrave;**

Ṫ **Ţ**
U+0162 LATIN CAPITAL LETTER T WITH CEDILLA

Ṫ̄ **&Tmacr;**

Ṫ̇ **&Tsubdot;**
U+1E6C LATIN CAPITAL LETTER T WITH DOT BELOW **&Tunderdot;**

ť **&tacute;**

ṭ **&tgrave;**

ṫ **ţ**
U+0163 LATIN SMALL LETTER T WITH CEDILLA

ṫ̄ **&tmacr;**

ṫ̇ **&ttail;**
U+0288 LATIN SMALL LETTER T WITH RETROFLEX HOOK

ṫ̈́ **&tsubdot;**
U+1E6D LATIN SMALL LETTER T WITH DOT BELOW **&tunderdot;**

ṫ̆ **&tsubuml;**

ṫ̈́ **&tsubbar;**
U+1E6F LATIN SMALL LETTER T WITH LINE BELOW

ṫ̂ **&tsubcaron;**
=&tsubwedge;

ṫ̃ **&tturn;**
U+0287 LATIN SMALL LETTER TURNED T

ṫ͡ **&tslig;**
U+02A6 LATIN SMALL LETTER TS DIGRAPH

ṫ͢ **&tshlig;**
U+02A7 LATIN SMALL LETTER TESH DIGRAPH

U u

Ū **Ú** HTML
U+00DA LATIN CAPITAL LETTER U WITH ACUTE

&U_accentacute;
特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&U_latinacute;
特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。**=&U_strongacute;**

Û **Ù** HTML
U+00D9 LATIN CAPITAL LETTER U WITH GRAVE

&U_accentgrave;
特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。

&U_latingrave;
特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。**=&U_stronggrave;**

Û̂ **Û** HTML
U+00DB LATIN CAPITAL LETTER U WITH CIRCUMFLEX

Û̈́ **Ü** HTML
U+00DC LATIN CAPITAL LETTER U WITH DIAERESIS

Û̃ **Ũ** HTML
U+0168 LATIN CAPITAL LETTER U WITH TILDE

Û̄ **Ū**
U+016A LATIN CAPITAL LETTER U WITH MACRON

Û̆ **Ŭ**
U+016C LATIN CAPITAL LETTER U WITH BREVE

Û̇ **&Ucaron;**
U+01D3 LATIN CAPITAL LETTER U WITH CARON

Û̈́ **&Usubdot;**
U+1EE4 LATIN CAPITAL LETTER U WITH DOT BELOW

Û̆ **&Usubbar;**

Û̇ **&Umacr_acute;**
=&umacr1;

U **&Usc;**
U+1D1C *sc = small capital

Ú **&Usc_acute;**
 Ù **&Usc_grave;**
 ú **ú** [HTML]
 U+00FA LATIN SMALL LETTER U WITH ACUTE
&u_accentacute;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。
&u_latinacute;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&u_strongacute;**
 ù **ù** [HTML]
 U+00F9 LATIN SMALL LETTER U WITH GRAVE
&u_accentgrave;
 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。
&u_latingrave;
 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。=**&u_stronggrave;**
 û **û** [HTML]
 U+00FB LATIN SMALL LETTER U WITH CIRCUMFLEX
 ü **ü** [HTML]
 U+00FC LATIN SMALL LETTER U WITH DIAERESIS
 ũ **ũ** [HTML]
 U+0169 LATIN SMALL LETTER U WITH TILDE
 ū **ū**
 U+016B LATIN SMALL LETTER U WITH MACRON
 Ů **ŭ**
 U+016D LATIN SMALL LETTER U WITH BREVE
 ů **&ucaron;**
 U+01D4 LATIN SMALL LETTER U WITH CARON
 Ű **ů**
 U+016F LATIN SMALL LETTER U WITH RING ABOVE
 Ū **&uwacute;**
 U+0171 LATIN SMALL LETTER U WITH DOUBLE ACUTE
 Ů **&ubar;**
 U+0289 LATIN SMALL LETTER U BAR
 Ů **&ubar_acute;**
 =**&ubar1;**
 ů **&ucaron_grave;**
 =**&ucaron2;**

Ů **&umacr_acute;**
 =**&umacr1;**
 ů **&umacr_tilde;**
 Ů **&umacr_breve;**
 Ů **&usubacute;**
 Ů **&usubbar;**
 Ů **ü_acute;**
 U+01D8 LATIN SMALL LETTER U WITH DIAERESIS AND ACUTE =**ü1;**
 Ů **ü_grave;**
 U+01DC LATIN SMALL LETTER U WITH DIAERESIS AND GRAVE =**ü2;**
 Ů **ü_caron;**
 U+01DA LATIN SMALL LETTER U WITH DIAERESIS AND CARON
 Ů **ü_subacute;**

V v

V́ **&Vacute;**
 V̀ **&Vgrave;**
 V̄ **&Vmacr;**
 V̇ **&Vsubdot;**
 V́ **&vacute;**
 V̀ **&vgrave;**
 V̇ **&vsubdot;**
 U+1E7F LATIN SMALL LETTER V WITH DOT BELOW
 V̄ **&vsubbar;**

W w

| | |
|----|--|
| Ŵ | &Wacute; U+1E82 LATIN CAPITAL LETTER W WITH ACUTE |
| Ẁ | &Wgrave; U+1E80 LATIN CAPITAL LETTER W WITH GRAVE |
| Ŵ̄ | &Wmacr; |
| Ẃ | &Wodot; U+1E86 LATIN CAPITAL LETTER W WITH DOT ABOVE |
| Ẅ | &Wsubdot; U+1E88 LATIN CAPITAL LETTER W WITH DOT BELOW |
| ℳ | &Wturn; |
| ŵ | &wacute; U+1E83 LATIN SMALL LETTER W WITH ACUTE |
| ẁ | &wgrave; U+1E81 LATIN SMALL LETTER W WITH GRAVE |
| ŵ̂ | &wcirc; U+0175 LATIN SMALL LETTER W WITH CIRCUMFLEX |
| ẃ | &wtilde; |
| ŵ̄ | &wmacr; |
| ẅ | &wcaron; |
| Ẇ | &wsubdot; U+1E89 LATIN SMALL LETTER W WITH DOT BELOW |
| ℴ | &wturn; U+028D LATIN SMALL LETTER TURNED W |

X x

| | |
|----|---------------------|
| Ẁ | &Xacute; |
| Ẅ | &Xgrave; |
| Ẅ̄ | &Xmacr; |
| Ẁ | &xacute; |

| | |
|----|--|
| Ẁ | &xgrave; |
| Ẅ̄ | &xmacr; |
| Ẁ | &xodot; U+1E8B LATIN SMALL LETTER X WITH DOT ABOVE |

Y y

| | |
|----|---|
| Ỳ | &Yacute; <small>HTML</small> U+00DD LATIN CAPITAL LETTER Y WITH ACUTE |
| Ỳ | &Ygrave; U+1EF2 LATIN CAPITAL LETTER Y WITH GRAVE |
| Ỳ̇ | &Yuml; <small>HTML</small> U+0178 |
| Ỳ̄ | &Ymacr; U+0232 LATIN CAPITAL LETTER Y WITH MACRON |
| Ỳ̇ | &Yodot; U+1E8E LATIN CAPITAL LETTER Y WITH DOT ABOVE |
| Ȳ | &Ysubbar; |
| ỳ | &yacute; <small>HTML</small> U+00FD LATIN SMALL LETTER Y WITH ACUTE |
| ỳ | &ygrave; U+1EF3 LATIN SMALL LETTER Y WITH GRAVE |
| | &y_accentgrave; 特に強弱アクセントを区別したい場合にのみ使用。 |
| | &y_latingrave; 特に綴りアクセントを区別したい場合にのみ使用。= &y_stronggrave; |
| ÿ | &ycirc; U+0177 LATIN SMALL LETTER Y WITH DIAERESIS |
| ÿ̇ | &yuml; <small>HTML</small> U+00FF |
| ÿ̃ | &ytilde; U+1EF9 LATIN SMALL LETTER Y WITH TILDE |
| ÿ̄ | &ymacr; U+0233 LATIN SMALL LETTER Y WITH MACRON |

ŷ **&ybreve;**
 Ÿ **&ycaron;**
 ŷ̇ **&yodot;**
 U+1E8F LATIN SMALL LETTER Y WITH DOT ABOVE
 ŷ̆ **&yacr_acute;**
 =&yacr1;
 ŷ̇̆ **&yacr_breve;**
 Ȳ **&yturn;**
 U+028E LATIN SMALL LETTER TURNED Y

Z z

Ź **Ź**
 U+0179 LATIN CAPITAL LETTER Z WITH ACUTE
 Ż **&Zgrave;**
 Ź̇ **Ž**
 U+017D LATIN CAPITAL LETTER Z WITH CARON
 Ż **&Zsubdot;**
 U+1E92 LATIN CAPITAL LETTER Z WITH DOT BELOW **&Zunderdot;**
 Ž **&Zodot;**
 U+017B LATIN CAPITAL LETTER Z WITH DOT ABOVE **&Zupperdot;**
 Ʒ **ź**
 U+017A LATIN SMALL LETTER Z WITH ACUTE

5.2 発音記号

ɑ

ɑ **&scripta;**
 U+0251 LATIN SMALL LETTER ALPHA
 ɑ́ **&scripta_acute;**
 ɑ̀ **&scripta_grave;**

Ž **&zgrave;**
 Ž̇ **ž**
 U+017E LATIN SMALL LETTER Z WITH CARON
 Ž̆ **&zbreve;**
 Ž̇̆ **&zmacr;**
 Ž̇̆̇ **&zodot;**
 U+017C LATIN SMALL LETTER Z WITH DOT ABOVE **&zupperdot;**
 Ż̆̇ **&zsubdot;**
 U+1E93 LATIN SMALL LETTER Z WITH DOT BELOW
 Ż̆̇̆̇ **&zsubuml;**

その他の欧文系文字

Œ **ß** HTML
 U+00DF LATIN SMALL LETTER SHARP S
 Ð **Ð** HTML
 U+00D0 LATIN CAPITAL LETTER ETH
 ð **ð** HTML
 U+00F0 LATIN SMALL LETTER ETH
 Þ **Þ** HTML
 U+00DE LATIN CAPITAL LETTER THORN
 þ **þ** HTML
 U+00FE LATIN SMALL LETTER THORN
 Б **&ssign;**
 U+0411 CYRILLIC CAPITAL LETTER BE

â **&scripta_circ;**
 ã **&scripta_tilde;**
 ã́ **&scripta_tilde_acute;**
 =&scripta_tilde1;
 ã̀ **&scripta_tilde_grave;**
 =&scripta_tilde2;

ā **&scripta_macr;**
 á **&scripta_macr_acute;**
 = **&scripta_macr1;**
 ã **&scripta_macr_tilde;**
 ă **&scripta_breve;**
 ɒ **&scripta_turn;**
 U+0252 LATIN SMALL LETTER TURNED ALPHA
 ó **&scripta_turn_acute;**
 = **&scripta_turn1;**
 õ **&scripta_turn_tilde;**

o

ɔ **&openo;**
 U+0254 LATIN SMALL LETTER OPEN O
 ó **&openo_acute;**
 ò **&openo_grave;**
 õ **&openo_tilde;**
 ô **&openo_tilde_acute;**
 = **&openo_tilde1;**
 ȝ **&openo_caron;**

ə

ə **&schwa;**
 U+0259 LATIN SMALL LETTER SCHWA
 é **&schwa_acute;**
 ê **&schwa_grave;**
 ë **&schwa_tilde;**
 ö **&schwa_uml;**
 ̄ **&schwa_macr;**

ǝ **&schwa_caron;**
 ø **&schwa_hook;**
 U+025A LATIN SMALL LETTER SCHWA WITH
 HOOK
 ø̇ **&schwa_hook_acute;**
 = **&schwa_hook1;**
 ø̈ **&schwa_hook_grave;**
 = **&schwa_hook2;**

ε

[ギリシア文字] (p.63)

g

ɡ **&scriptg;**
 U+0261 LATIN SMALL LETTER SCRIPT G
 ƒ **&scriptg_cross;**

γ

[ギリシア文字] (p.63)

ŋ

ɲ **ŋ**
 U+014B LATIN SMALL LETTER ENG
 ɳ **&eng_acute;**
 ɳ̇ **&eng_odot;**

υ

[ギリシア文字] (p.65)

Λ

ʌ **&vturn;**
 U+028C LATIN SMALL LETTER TURNED V
 ʌ̇ **&vturn_acute;**

ð **&vturn_grave;**
 ǎ **&vturn_caron;**
 ã **&vturn_tilde;**
 ă **&vturn_tilde_acute;**
 ˆ **=&vturn_tilde1;**

3

3 **&yogh;**
 U+0292 LATIN SMALL LETTER EZH
 ȝ **&yoghacute;**

その他の発音記号類

5.3 記号類

マークアップ記号

” **"**; HTML
 U+0022 QUOTATION MARK
 & **&**; HTML
 U+0026 AMPERSAND
 < **<**; HTML
 U+003C LESS-THAN SIGN
 > **>**; HTML
 U+003E GREATER-THAN SIGN

ラテン 1 記号

 ** **; HTML
 U+00A0 NO-BREAK SPACE
 ¡ **¡**; HTML
 U+00A1 INVERTED EXCLAMATION MARK
 | **¦**; HTML
 U+00A6 BROKEN BAR

∫ **&esh;**
 U+0283 LATIN SMALL LETTER ESH
 ʔ **&glotstop;**
 U+0294 LATIN LETTER GLOTTAL STOP
 Ʒ **&glsrev;**
 U+0295 LATIN LETTER PHARYNGEAL VOICED
 FRICATIVE
 ʔ **&glssup;**
 ▴ **&length;**
 U+02D0 MODIFIER LETTER TRIANGULAR
 COLON
 ▵ **&halflength;**
 U+02D1 MODIFIER LETTER HALF TRIANGULAR
 COLON
 ′ **&stress1;**
 U+02C8 MODIFIER LETTER VERTICAL LINE
 =**&primstress;**
 ′ **&stress2;**
 U+02CC MODIFIER LETTER LOW VERTICAL
 LINE =**&secstress;**

§ **§** HTML
 U+00A7 SECTION SIGN
 © **©** HTML
 U+00A9 COPYRIGHT SIGN
 a **ª** HTML
 U+00AA FEMININE ORDINAL INDICATOR
 ­ HTML
 U+00AD SOFT HYPHEN
 ® **®** HTML
 U+00AE REGISTERED SIGN
 ¶ **¶** HTML
 U+00B6 PILCROW SIGN
 • **·** HTML
 U+00B7 MIDDLE DOT
 1 **¹** HTML
 U+00B9 SUPERSCRRIPT ONE
 2 **²** HTML
 U+00B2 SUPERSCRRIPT TWO
 3 **³** HTML
 U+00B3 SUPERSCRRIPT THREE

¿ **¿** [HTML]
U+00BF INVERTED QUESTION MARK

カッコ類

≪ **«** [HTML]
U+00AB LEFT-POINTING DOUBLE ANGLE QUOTATION MARK

≫ **»** [HTML]
U+00BB RIGHT-POINTING DOUBLE ANGLE QUOTATION MARK

[**&whsumipl;**
U+3016

] **&whsumipr;**
U+3017

[**&whkamepl;**
U+3018

] **&whkamepr;**
U+3019

‘ **‘** [HTML]
U+2018 LEFT SINGLE QUOTATION MARK

’ **’** [HTML]
U+2019 RIGHT SINGLE QUOTATION MARK

’ **‚** [HTML]
U+201A SINGLE LOW-9 QUOTATION MARK

“ **“** [HTML]
U+201C LEFT DOUBLE QUOTATION MARK

” **”** [HTML]
U+201D RIGHT DOUBLE QUOTATION MARK

” **„** [HTML]
U+201E DOUBLE LOW-9 QUOTATION MARK

┌ **⌈** [HTML]
U+2308 LEFT CEILING

┐ **⌉** [HTML]
U+2309 RIGHT CEILING

└ **⌊** [HTML]
U+230A LEFT FLOOR

┘ **⌋** [HTML]
U+230B RIGHT FLOOR

< **‹** [HTML]
U+2039 SINGLE LEFT-POINTING ANGLE QUOTATION MARK

> **›** [HTML]
U+203A SINGLE RIGHT-POINTING ANGLE QUOTATION MARK

< **⟨** [HTML]
U+2329 LEFT-POINTING ANGLE BRACKET

> **⟩** [HTML]
U+232A RIGHT-POINTING ANGLE BRACKET

矢印, ダーシ類

← [HTML]
U+2190 LEFTWARDS ARROW

↑ [HTML]
U+2191 UPWARDS ARROW

→ [HTML]
U+2192 RIGHTWARDS ARROW

↓ [HTML]
U+2193 DOWNWARDS ARROW

↔ **↔** [HTML]
U+2194 LEFT RIGHT ARROW **&larrarrow;**

⇐ [HTML]
U+21D0 LEFTWARDS DOUBLE ARROW

⇑ [HTML]
U+21D1 UPWARDS DOUBLE ARROW

⇒ [HTML]
U+21D2 RIGHTWARDS DOUBLE ARROW

⇓ [HTML]
U+21D3 DOWNWARDS DOUBLE ARROW

⇔ **⇔** [HTML]
U+21D4 LEFT RIGHT DOUBLE ARROW

☞ **&yubisashi;**
U+261E WHITE RIGHT POINTING INDEX

⇨ **&rlarrows;**
U+21C4 RIGHTWARDS ARROW OVER LEFTWARDS ARROW

⇩ **&rlharpoons;**
U+21CC RIGHTWARDS HARPOON OVER LEFTWARDS HARPOON

⇧ **&lrharpoons;**
U+21CB LEFTWARDS HARPOON OVER RIGHTWARDS HARPOON

↗ **↗**
U+2197 NORTH EAST ARROW

↘ **↘**
U+2198 SOUTH EAST ARROW

↖ **↖**
U+2196 NORTH WEST ARROW

| | |
|----|---|
| ↙ | &swarrow; U+2199 SOUTH WEST ARROW |
| ↘ | &int_down; |
| ↗ | &int_up; |
| ↘↗ | &int_downup; |
| ↘↙ | &int_downlow; |
| - | &dash; U+2012 FIGURE DASH 必要に応じて‐ と—を使い分ける。 |
| — | &mdash; <small>HTML</small> U+2014 EM DASH |
| — | &ndash; <small>HTML</small> U+2013 EN DASH |
| ´ | &dashacute; 必要に応じて&dashacute; と&mdashacute; を使い分ける。 |
| ` | &dashgrave; 必要に応じて&dashgrave; と&mdashgrave; を使い分ける。 |
| | &doubledash; &2emdash; |
| | &tripledash; &3emdash; |
| | &quadrupledash; &4emdash; |
| ˘ | &swangacute; |
| ˘ | &swanggrave; |
| ˙ | &threedotacute; &3dotacute; |
| ˙ | &threedotgrave; &3dotgrave; |
| ☺ | &smile; U+2323 SMILE |
| ☺ | &smileacute; |
| ☹ | &frown; U+2322 FROWN |

通貨・単位記号類

| | |
|----|--|
| ¤ | &current; <small>HTML</small> U+00A4 CURRENCY SIGN |
| ¥ | &yen; <small>HTML</small> U+00A5 YEN SIGN |
| \$ | &dollar; |
| ¢ | &cent; <small>HTML</small> U+00A2 CENT SIGN |
| £ | &pound; <small>HTML</small> U+00A3 POUND SIGN |
| € | &euro; <small>HTML</small> U+20AC EURO SIGN |
| ° | &deg; <small>HTML</small> U+00B0 DEGREE SIGN |
| °F | &fahrenheit; U+2019 DEGREE FAHRENHEIT |
| ‰ | &permil; <small>HTML</small> U+2030 PER MILLE SIGN |
| ℓ | &litre; U+2113 SCRIPT SMALL L |
| μ | &micro; <small>HTML</small> U+00B5 MICRO SIGN |

その他の記号類

| | |
|----|--|
| ' | &apos; <small>HTML</small> U+0027 APOSTROPHE |
| // | &wslash; |
| † | &dagger; <small>HTML</small> U+2020 DAGGER |
| ‡ | &Dagger; <small>HTML</small> U+2021 DOUBLE DAGGER |
| ● | &bull; <small>HTML</small> U+2022 BULLET |
| ☠ | &hakenkreuz; 出現の場合は要注意。 |
| ✓ | &tick; U+2713 CHECK MARK |
| ♣ | &clubs; <small>HTML</small> U+2663 BLACK CLUB SUIT |

◆ **♦** HTML
U+2666 BLACK DIAMOND SUIT

♥ **♥** HTML
U+2665 BLACK HEART SUIT

♠ **♠** HTML
U+2660 BLACK SPADE SUIT

✱
✱✱ **&asterisk3;**
U+2042 ASTERISM **&3asterisk;**

✱✱
✱ **&asterisk3inv;**
&3asteriskinv;

♪ **&crotchet;**
U+2669 QUARTER NOTE

◡ **&fermata;**

… **…** HTML
U+2026 HORIZONTAL ELLIPSIS

™ **™** HTML
U+2122 TRADE MARK SIGN

** ** HTML
U+2002 EN SPACE

** ** HTML
U+2003 EM SPACE

** ** HTML
U+2009 THIN SPACE

- **‾** HTML
U+203E OVERLINE

/ **⁄** HTML
U+2044 FRACTION SLASH

♮ **♮**
U+266E MUSIC NATURAL SIGN

♭ **♭**
U+266D MUSIC FLAT SIGN

≡ **&tally;**

≡ **&tally1;**

≡ **&tally2;**

- 記号類については、HTML を使用した表現や JIS の全角記号の代用も当然可能である。「%」や「`…`」など頻繁に出現するが実体参照名で記述する必要が生じなかったものも多い。初期 XML コンバート処理やメンテナンス時のコストへの影響を考慮して判断していただきたい。

* 「cm³」などは、`cm³` で十分と思われる。途中改行が心配な場合は、`<nobr>cm³</nobr>` とするしかないが、そのような場合には実体参照名を与えた方がいいだろう。

* 「ℓ」(リットル)のように、`<i>l</i>` 「l」では不十分な場合もあるので、注意すること。

5.4 数字

数字に変音記号がつくパターンはさすがにならう、と踏んでいたら、「7-Éleven」といったパターンで出てきた。原則、「&n(数字)(変音指示);」の形式とし、以下に代表的なもののみ例示する。

| | | | | | |
|---|-----------------------|---|-----------------------|----|-------------------------|
| í | &n1acute; í | è | &n2grave; &2grave; | í0 | &n10acute; &i0acute; |
| ì | &n1grave; &lgrave; | é | &n3acute; &3acute; | ì0 | &n10grave; &l0grave; |
| ê | &n2acute; &2acute; | ê | &n7acute; &7acute; | è6 | &n66grave; &66grave; |

分数は基本的に「&frac(分子)(分母);」の形式で記述する。分子もしくは分母が2桁以上となる場合は「&frac(分子)_(分母);」のようにデリミタとして「_」を挿入する。分数についても、代表的なもののみ例示する。

| | | | | | |
|---------------|--|---------------|--|-----------------|----------------------|
| $\frac{1}{2}$ | ½ <small>HTML</small> U+00BD | $\frac{3}{4}$ | ¾ <small>HTML</small> U+00BE | $\frac{1}{10}$ | &frac1_10; U+2152 |
| $\frac{1}{3}$ | ⅓ U+2153 | $\frac{1}{n}$ | &frac1n; | $\frac{1}{100}$ | &frac1_100; |
| $\frac{1}{4}$ | ¼ <small>HTML</small> U+00BC | $\frac{a}{b}$ | &fracab; | | |

枠囲みと丸囲みは以下の形式で記述する。

- 白い四角 (White Square) と文字の合成記号の場合には「&ws(文字);」の形式で記述。
 - 白い丸 (White Circle) と文字の合成記号の場合には「&wc(文字);」の形式で記述。
 - 黒い四角 (Black Square) と文字の合成記号の場合には「&bs(文字);」の形式で記述。
 - 黒い丸 (Black Circle) と文字の合成記号の場合には「&bc(文字);」の形式で記述。
- * 提供・投入先のシステムが XML の決まり事にあまりうるさくない場合には、「&wc_kan6;」や「&ws_hka;」といった形式ではなく、「&wc六;」や「&wsあ;」のような記述することが現実的には多い。こちらの方が視認しやすく編集・メンテナンス上の負荷も低いので。

I &bsI; **1** &bs1; 1 &ws1; **①** &bc1; ① &wc1;

II &bsII; **2** &bs2; 2 &ws2; **②** &bc2; ② &wc2;

III &bsIII; **3** &bs3; 3 &ws3; **③** &bc3; ③ &wc3;

U &wsU; 五 &ws_kan5; a &wca;

略 &wc_ryaku; ↷ &bcarrow; ☆ &bc_star;

アラビア数字、アルファベット単体の場合は「&bf(英数字);」の形式で記述する (bf=BoldFont)。

丸括弧の場合は「&pr(英数字);」(両括弧:pr=PaRenthese)、「&rpr(英数字);」(片括弧:rpr=RightPaRenthese)となる。

| | | | | | | | |
|----------|-------|----------|-------|------------|-------|-----------|--------|
| 1 | &bf1; | a | &bfa; | (1) | &pr1; | a) | &rpra; |
| 2 | &bf2; | b | &bfb; | (2) | &pr2; | b) | &rprb; |
| 3 | &bf3; | c | &bfc; | (3) | &pr3; | c) | &rprc; |

5.5 ギリシア文字

A α

A Α HTML
U+0391 GREEK CAPITAL LETTER ALPHA

α α HTML
U+03B1 GREEK SMALL LETTER ALPHA

ά &alphaacute;
U+03AC GREEK SMALL LETTER ALPHA WITH TONOS

ā &alphamacr;

α̣ &alphasubioti;
U+1FB3 GREEK SMALL LETTER ALPHA WITH YPOGEGRAMMENI

B β

B Β HTML
U+0392 GREEK CAPITAL LETTER BETA

β β HTML
U+03B2 GREEK SMALL LETTER BETA

Γ γ

Γ Γ HTML
U+0393 GREEK CAPITAL LETTER GAMMA

γ γ HTML
U+03B3 GREEK SMALL LETTER GAMMA

γ̇ &gammaodot;

γ̣ &scriptgamma;
U+0263 SMALL LETTER GAMMA

γ̣̇ &scriptgamma_caron;

γ̄ &scriptgamma_macr;

Δ δ

Δ Δ HTML
U+0394 GREEK CAPITAL LETTER DELTA

δ δ HTML
U+03B4 GREEK SMALL LETTER DELTA

E ε

E Ε HTML
U+0395 GREEK CAPITAL LETTER EPSILON

ε ε HTML
U+03B5 GREEK SMALL LETTER EPSILON / U+025B(IPA)

έ &epsilonacute;
U+03AD GREEK SMALL LETTER EPSILON WITH TONOS

è &epsilongrave;
U+1F72 GREEK SMALL LETTER EPSILON WITH VARIA

̵ **&epsilontilde;**
 ̶ **&epsilontilde_acute;**
 =&epsilontilde1;
 ̷ **&epsilonmacr;**
 ̸ **&epsilonbreve;**
 Ͱ **&epsilonrev;**
 U+025C LATIN SMALL LETTER REVERSED
 OPEN E
 ͱ **&epsilonrev_hook;**
 U+025D LATIN SMALL LETTER REVERSED
 OPEN E WITH HOOK

Z ζ

Z **Ζ** HTML
 U+0396 GREEK CAPITAL LETTER ZETA
 ζ **ζ** HTML
 U+03B6 GREEK SMALL LETTER ZETA

H η

H **Η** HTML
 U+0397 GREEK CAPITAL LETTER ETA
 η **η** HTML
 U+03B7 GREEK SMALL LETTER ETA
 ḥ **&etaacute;**
 U+03AE GREEK SMALL LETTER ETA WITH
 TONOS
 ḥ̄ **&etamacr_acute;**
 =&etamacr1;
 ḥ̇ **&etasubiota;**
 U+1FC3 GREEK SMALL LETTER ETA WITH
 YPOGEGRAMMENI

Θ θ

Θ **Θ** HTML
 U+0398 GREEK CAPITAL LETTER THETA
 θ **θ** HTML
 U+03B8 GREEK SMALL LETTER THETA

̸̄ **&thetamacr;**

ϑ **ϑ** HTML
 U+03D1 GREEK THETA SYMBOL

I ι

I **Ι** HTML
 U+0399 GREEK CAPITAL LETTER IOTA
 ι **ι** HTML
 U+03B9 GREEK SMALL LETTER IOTA
 ῑ **&iotaacute;**
 U+03AF GREEK SMALL LETTER IOTA WITH
 TONOS

K κ

K **Κ** HTML
 U+039A GREEK CAPITAL LETTER KAPPA
 κ **κ** HTML
 U+03BA GREEK SMALL LETTER KAPPA

Λ λ

Λ **Λ** HTML
 U+039B GREEK CAPITAL LETTER LAMDA
 λ **λ** HTML
 U+03BB GREEK SMALL LETTER LAMDA
 λ̄ **&lambdamacr;**

M μ

M **Μ** HTML
 U+039C GREEK CAPITAL LETTER MU
 μ **μ** HTML
 U+03BC GREEK SMALL LETTER MU
 μ̇ **&muacute;**
 μ̈ **&muodot;**

N ν

Ν **Ν** [HTML](#)
U+039D GREEK CAPITAL LETTER NU

ν **ν** [HTML](#)
U+03BD GREEK SMALL LETTER NU

ν̄ **&numacr;**

Ξ **Ξ** [HTML](#)
U+039E GREEK CAPITAL LETTER XI

ξ **ξ** [HTML](#)
U+03BE GREEK SMALL LETTER XI

O o

Ο **Ο** [HTML](#)
U+039F GREEK CAPITAL LETTER OMICRON

ο **ο** [HTML](#)
U+03BF GREEK SMALL LETTER OMICRON

ό **&omicronacute;**
U+03CC GREEK SMALL LETTER OMICRON WITH TONOS

Π π

Π **Π** [HTML](#)
U+03A0 GREEK CAPITAL LETTER PI

π **π** [HTML](#)
U+03C0 GREEK SMALL LETTER PI

P ρ

Ρ **Ρ** [HTML](#)
U+03A1 GREEK CAPITAL LETTER RHO

ρ **ρ** [HTML](#)
U+03C1 GREEK SMALL LETTER RHO

Σ σ

Σ **Σ** [HTML](#)
U+03A3 GREEK CAPITAL LETTER SIGMA

σ **σ** [HTML](#)
U+03C3 GREEK SMALL LETTER SIGMA

ς **ς** [HTML](#)
U+03C2 GREEK SMALL LETTER FINAL SIGMA

T τ

Τ **Τ** [HTML](#)
U+03A4 GREEK CAPITAL LETTER TAU

τ **τ** [HTML](#)
U+03C4 GREEK SMALL LETTER TAU

Υ υ

Υ **Υ** [HTML](#)
U+03A5 GREEK CAPITAL LETTER UPSILON

υ **υ** [HTML](#)
U+03C5 GREEK SMALL LETTER UPSILON

ύ **&upsilonacute;**

ϋ **&upsilongrave;**
U+1F7A GREEK SMALL LETTER UPSILON WITH VARIA

Ϸ **&upsiloncaron;**

Φ φ

Φ **Φ** [HTML](#)
U+03A6 GREEK CAPITAL LETTER PHI

φ **φ** [HTML](#)
U+03C6 GREEK SMALL LETTER PHI

φ̇ **&phigrave;**

φ̄ **&phimacr;**

X χ

Χ **Χ** [HTML](#)
U+03A7 GREEK CAPITAL LETTER CHI

χ **χ** HTML
U+03C7 GREEK SMALL LETTER CHI

$\Psi \psi$

Ψ **Ψ** HTML
U+03A8 GREEK CAPITAL LETTER PSI

ψ **ψ** HTML
U+03C8 GREEK SMALL LETTER PSI

5.6 数学関連

2 項演算子

- **−** HTML
U+2212 MINUS SIGN

\pm **±** HTML
U+00B1 PLUS-MINUS SIGN

\times **×** HTML
U+00D7 MULTIPLICATION SIGN

\div **÷** HTML
U+00F7 DIVISION SIGN

* **∗** HTML
U+2217 ASTERISK OPERATOR

\circ **º** HTML
U+2218 RING OPERATOR

· **⋅** HTML **⋅**
U+22C5 DOT OPERATOR

\cap **∩** HTML
U+2229 INTERSECTION

\cup **∪** HTML
U+222A UNION

\vee **∨** HTML **∨**
U+2228 LOGICAL OR

\wedge **∧** HTML **∧**
U+2227 LOGICAL AND

\setminus **&backslash;**
U+2216 SET MINUS

\diamond **◊** HTML
U+25CA LOZENGE

$\Omega \omega$

Ω **Ω** HTML
U+03A9 GREEK CAPITAL LETTER OMEGA

\Uparrow **℧**

ω **ω** HTML
U+03C9 GREEK SMALL LETTER OMEGA

ω **&omegasubiota;**
U+1FF3 GREEK SMALL LETTER OMEGA WITH
YPOGEGRAMMENI

\oplus **⊕** HTML
U+2295 CIRCLED PLUS

\ominus **⊖**
U+2296 CIRCLED MINUS

\otimes **⊗** HTML
U+2297 CIRCLED TIMES

\odot **&mathdot;**
U+2299 CIRCLED DOT OPERATOR

\exists **∃** HTML
U+2203 THERE EXISTS

\emptyset **∅** HTML
U+2205 EMPTY SET

関係演算子

\subset **⊂** HTML **⊂**
U+2282 SUBSET OF

\supset **⊃** HTML **⊃**
U+2283 SUPERSET OF

\subseteq **⊆** HTML **&subeteq;**
U+2286 SUBSET OF OR EQUAL TO

\supseteq **⊇** HTML **&supeteq;**
U+2287 SUPERSET OF OR EQUAL TO

\in **∈** HTML
U+2208 ELEMENT OF

\ni **∋** HTML
U+220B CONTAINS AS MEMBER

| | |
|---------------|---|
| \leq | &le; <small>HTML</small> U+2264 LESS-THAN OR EQUAL TO |
| \geq | &ge; <small>HTML</small> U+2265 GREATER-THAN OR EQUAL TO |
| \notin | &notin; <small>HTML</small> U+2209 NOT AN ELEMENT OF |
| \equiv | &equiv; <small>HTML</small> U+2261 IDENTICAL TO |
| \approx | &simeq; U+2243 ASYMPTOTICALLY EQUAL TO |
| \approx | &cong; <small>HTML</small> U+2245 APPROXIMATELY EQUAL TO |
| \neq | &ne; <small>HTML</small> U+2260 NOT EQUAL TO |
| \propto | &prop; <small>HTML</small> U+221D PROPORTIONAL TO &propto; |
| $\dot{=}$ | &fallingdotseq; U+2252 APPROXIMATELY EQUAL TO OR THE IMAGE OF |
| \lesssim | &lesssim; U+2272 LESS-THAN OR EQUIVALENT TO |
| $\not\subset$ | &subsetneqq; U+2ACB SUBSET OF ABOVE NOT EQUAL TO |
| \sim | &sim; <small>HTML</small> U+223C TILDE OPERATOR |
| \approx | &asymp; <small>HTML</small> U+2248 ALMOST EQUAL TO |
| \therefore | &there4; <small>HTML</small> U+2234 THEREFORE |
| $\not\subset$ | &nsub; <small>HTML</small> U+2284 NOT A SUBSET OF |

数式雑記号

| | |
|-----------|--|
| \sum | &sum; <small>HTML</small> U+2211 N-ARY SUMMATION |
| \prod | &prod; <small>HTML</small> U+220F N-ARY PRODUCT |
| \coprod | &coprod; U+2210 N-ARY COPRODUCT |
| \int | &int; <small>HTML</small> U+222B INTEGRAL |

| | |
|-------------------|--|
| \oint | &oint; U+222E CONTOUR INTEGRAL |
| \aleph | &alefsym; <small>HTML</small> U+2135 ALEF SYMBOL &aleph; |
| ∂ | &part; <small>HTML</small> U+2202 PARTIAL DIFFERENTIAL &partial; |
| ∞ | &infin; <small>HTML</small> U+221E INFINITY &infty; |
| \prime | &prime; <small>HTML</small> U+2032 PRIME |
| $\prime\prime$ | &Prime; <small>HTML</small> U+2033 DOUBLE PRIME |
| ∇ | &nabla; <small>HTML</small> U+2207 NABLA |
| \sphericalangle | &ang; <small>HTML</small> U+2220 ANGLE &angle; |
| $\sqrt{\quad}$ | &radic; <small>HTML</small> U+221A SQUARE ROOT |
| \forall | &forall; <small>HTML</small> U+2200 FOR ALL |
| \neg | &not; <small>HTML</small> U+00AC NOT SIGN |
| \perp | &perp; <small>HTML</small> U+22A5 UP TACK |
| \Im | &image; <small>HTML</small> U+2111 BLACK-LETTER CAPITAL I |
| \wp | &weierp; <small>HTML</small> U+2118 SCRIPT CAPITAL P |
| \Re | &real; <small>HTML</small> U+211C BLACK-LETTER CAPITAL R |

ベクトル

| | |
|-----------|-------------------|
| \vec{A} | &Avec; |
| \vec{B} | &Bvec; |
| \vec{a} | &avec; |
| \vec{b} | &bvec; |
| \vec{j} | &jvec; |

| | |
|----------------------|--|
| \vec{p} | <code>&pvec;</code> |
| \vec{r} | <code>&rvec;</code> |
| \vec{v} | <code>&vvec;</code> |
| $\vec{\beta}$ | <code>&betavec;</code> |
| \lim_{\leftarrow} | <code>&lim_underleftarrow;</code> |
| \lim_{\rightarrow} | <code>&lim_underrightarrow;</code> |

スク립ト体 (数式)

| | |
|---------------|--|
| \mathcal{A} | <code>&Amathcal;</code> |
| \mathcal{B} | <code>&Bmathcal;</code> U+212C SCRIPT CAPITAL B |
| \mathcal{C} | <code>&Cmathcal;</code> |
| \mathcal{D} | <code>&Dmathcal;</code> |
| \mathcal{F} | <code>&Fmathcal;</code> U+2131 SCRIPT CAPITAL F |
| \mathcal{L} | <code>&Lmathcal;</code> U+2112 SCRIPT CAPITAL L |
| \mathcal{O} | <code>&Omathcal;</code> |
| \mathcal{P} | <code>&Pmathcal;</code> |
| \mathcal{S} | <code>&Smathcal;</code> |
| \mathcal{X} | <code>&Xmathcal;</code> |

ドイツ文字 (数式)

| | |
|----------------|------------------------------|
| \mathfrak{A} | <code>&Amathfrak;</code> |
| \mathfrak{B} | <code>&Bmathfrak;</code> |

| | |
|----------------|---|
| \mathbb{C} | <code>&Cmathfrak;</code> U+212D BLACK-LETTER CAPITAL C |
| \mathbb{D} | <code>&Dmathfrak;</code> |
| \mathbb{F} | <code>&Fmathfrak;</code> |
| \mathbb{G} | <code>&Gmathfrak;</code> |
| \mathbb{H} | <code>&Hmathfrak;</code> U+210C BLACK-LETTER CAPITAL H |
| \mathbb{K} | <code>&Kmathfrak;</code> |
| \mathbb{M} | <code>&Mmathfrak;</code> |
| \mathbb{N} | <code>&Nmathfrak;</code> |
| \mathbb{O} | <code>&Omathfrak;</code> |
| \mathbb{P} | <code>&Pmathfrak;</code> |
| \mathbb{R} | <code>&Rmathfrak;</code> |
| \mathbb{S} | <code>&Smathfrak;</code> |
| \mathbb{U} | <code>&Umathfrak;</code> |
| \mathfrak{a} | <code>&amathfrak;</code> |
| \mathfrak{b} | <code>&bmathfrak;</code> |
| \mathfrak{c} | <code>&cmathfrak;</code> |
| \mathfrak{g} | <code>&gmathfrak;</code> |
| \mathfrak{f} | <code>&kmathfrak;</code> |
| \mathfrak{l} | <code>&lmathfrak;</code> |
| \mathfrak{d} | <code>&omathfrak;</code> |
| \mathfrak{p} | <code>&pmathfrak;</code> |
| \mathfrak{z} | <code>&zmathfrak;</code> |

黑板太文字 (数式)

Ⓒ **&Cmathbb;**
U+2102 DOUBLE-STRUCK CAPITAL C

Ⓓ **&Dmathbb;**

Ⓕ **&Hmathbb;**
U+210D DOUBLE-STRUCK CAPITAL H

5.7 漢字

頰 **&lxHoho;**
U+9830

嘘 **&lxUso;**
U+5653

吞 **&lxNomu;**
U+541E

搦 **&lxTsukamu;**
U+6451

高 **&lxHashigoTaka;**
U+9AD9

Ⓖ **&Nmathbb;**
U+2115 DOUBLE-STRUCK CAPITAL N

Ⓖ **&Qmathbb;**
U+211A DOUBLE-STRUCK CAPITAL Q

Ⓖ **&Rmathbb;**
U+211D DOUBLE-STRUCK CAPITAL R

Ⓖ **&Zmathbb;**
U+2124 DOUBLE-STRUCK CAPITAL Z

鷓 **&lxShinaKamome;**
U+9DD7

崎 **&lxTatsuSaki;**
U+FA11

鄧 **&lxTou;**
U+9127

臈 **&lxRou;**
U+FA1F

付録A 日本の辞書の特殊事情について(まとめ)

2013年6月7日
JEPA レファレンス委員会

A.1 日本語辞書の見出しの特殊性

日本語の辞書の“引き方”について、特殊性があり、かつ重要な事項として、以下の2点が挙げられる。

- 通常、仮名見出しと漢字表記がセットで見出しと位置づけられている。その何れからでも検索できることが必要。
- 漢和辞典、漢字辞典では、文字としての漢字が見出しになる。文字としての各種属性から検索できることが必要。

A.2 各「見出し」要素の特徴 — 見出し語検索の問題点

A.2.1 仮名見出し

1. 「ひらがな」と「カタカナ」がある¹。混在する場合もある。

あお【青】〔あを〕
ナイル [Nile]
あお ナイル【青ナイル】〔あを 〕

「ひらがな」と「カタカナ」は区別することなく検索できなければならない。

2. 「古典(歴史)仮名遣い」と「現代仮名遣い」がある。

ああむじょう【噫無情】〔ああムジヤウ〕
ひびや こうえん【日比谷公園】〔コウエン〕

一般的に古語辞典でない限り、「古典(歴史)仮名遣い」を検索に供することは少ない。

3. 清濁、拗音促音などの語形の“揺れ”がある。
4. 外来語などのカナ表記の“揺れ”がある。

[artist] アーチスト/アーティスト
[swimwear] スイムウエア/スイムウェア
[architecture] アーキテクチャー/アーキテクチュア

¹「ひらがな」には「ヴ」「カ」「ケ」がない。また基本的に「ー」(長音記号)もない(沖縄を除く)。

[āyurveda] アーユルヴェーダ/アーユルヴェーダ
[saxophone] サキソホン/サキソフォン/サクソホン/サクソフォン/サキソホン/
サキソフォン/サクソホン/サクソフォン

拗音・促音および母音小文字は大文字と同値として、濁音・半濁音は清音と同値として、検索に供されることが望ましい。

「ー」(長音)は無視して検索に供することが望ましい。

「バ行」と「ヴァ行」などのカナ表記の揺れについては、基本的に辞書データ側で検索キーとして事前に持つしかない?

A.2.2 漢字表記(見出し)

1. 漢字表記が複数ある場合がある。

う・ける【受ける/請ける/ 享ける/ 承ける】
ほととぎす【時 = 鳥/子 = 規/杜 = 鶡/不 = 如 = 帰/郭 = 公】

2. 送り仮名の付け方に許容が認められている。

うかび あが・る【浮(か)び上(が)る】
KEY: 浮び上る/浮かび上る/浮び上がる/浮かび上がる
うめたて ち【埋(め)立(て)地】
KEY: 埋立地/埋め立地/埋立て地/埋め立て地

3. 辞書では漢字表記に記号をつけていることがある。

いせ えび【× 伊 勢海 = 老/× 伊 勢 × 蝦】

4. 表記の可能性が複数ありうる(新字体、旧字体、拡張新字体など)。

あくたがわ りゅうのすけ【芥川竜之介】
KEY: 芥川竜之介/芥川龍之介
けいおうぎじゅく だいがく【慶応義塾大学】
KEY: 慶応義塾大学/慶應義塾大学/慶應義塾大學

5. 辞書上では漢字が充てられているものの、交ぜ書きが一般的なものがある²。

せっ けん【石 × 鱈】
KEY: 石鱈/石けん
あせ みずく【汗 × 水漬く】
KEY: 汗水漬く/汗みずく

6. 表記見出し中に英数字や記号類が含まれる場合がある。全角文字/半角文字や、アルファベットの
大文字/小文字が混在する可能性がある。

くみかえ ディーエヌエー【組(み)換え DNA】〔くみかへ 〕
ダビング テン【ダビング 10】
ににろく じけん【二・二六事件】

7. 一部固有名詞で踊り字が含まれる場合がある。

がくもんのすすめ【学問のすゝめ】
KEY: 学問のすゝめ/学問のすすめ/学問ノススメ/学問ノスゝメ

²小学生向け学習辞典などにおいて「教育漢字」の影響で特殊な交ぜ書きが発生する。例)「けんび鏡」

A.2.3 単漢字(見出し)

1. 音訓の読みによる検索
2. 部首による検索
3. (総)画数による検索
4. 文字コードによる検索

A.2.4 子見出し

1. 派生語
2. 合成語
3. 成句・ことわざ・慣用表現

A.3 読書端末での利用を想定した検索上の問題点

検索語をユーザーが入力・指定して検索する場合と異なり、読書端末上の利用シーンでは、読書中の文章中の単語をユーザが“範囲指定”して検索に供するシチュエーションが多くなると予想される。

A.3.1 活用語の問題

- 文章中から検索語を取得する場合、それは活用語である可能性がある。活用語を検索するためには、活用語形から見出し語形に変換するためのデータが必要となる。
- * 基本的に動詞、形容詞。形容動詞はどうするか?
- * 仮名だけなら小さな変換テーブルですむが、漢字表記を含めると膨大なものになる。

A.3.2 同表記異義語の問題(ヨミが違うなど)

1. 一般見出し語の場合。

にっぽん ばし【日本橋】 大阪市中央区の～
にほん ばし【日本橋】 東京都中央区の～

2. 単漢字の場合。

A.3.3 分かちの問題 (分かちがない)

A.3.4 ルビなどの問題

A.3.5 いろいろな表記

書籍の中では、上記交ぜ書きの範囲を超えて、いろいろな表記が存在する。

じゃがいも/ジャガイモ/ジャがいも/馬鈴薯/ジャガ芋
たんぱく質/タンパク質/蛋白質

A.3.6 省略形

書籍の中では、さまざまな省略形が使われる。

A.4 文字コードと字形

さしあたり、本まとめでは触れない。

索引

| | | | |
|-----------------|----|----------------|----|
| &10acute; | 62 | &aeacute; | 42 |
| &10grave; | 62 | &aegrave; | 42 |
| &1acute; | 62 | Æ | 42 |
| &1grave; | 62 | æ | 42 |
| &2acute; | 62 | æ_tilde; | 42 |
| &2emdash; | 60 | &aemacr; | 42 |
| &2grave; | 62 | &aetilde; | 42 |
| &3acute; | 62 | À | 41 |
| &3asterisk; | 61 | à | 41 |
| &3asteriskinv; | 61 | &ahook; | 42 |
| &3dotacute; | 60 | &Ainv; | 41 |
| &3dotgrave; | 60 | ℵ | 67 |
| &3emdash; | 60 | ℵ | 67 |
| &4emdash; | 60 | Α | 63 |
| &66grave; | 62 | α | 63 |
| &7acute; | 62 | &alphaacute; | 63 |
| &A_accentacute; | 40 | &alphamacr; | 63 |
| &a_accentacute; | 41 | &alphasubiota; | 63 |
| &A_accentgrave; | 41 | Ā | 41 |
| &a_accentgrave; | 41 | ā | 41 |
| &A_latinacute; | 40 | &Amacr_acute; | 41 |
| &a_latinacute; | 41 | &amacr_acute; | 41 |
| &A_latingrave; | 41 | &amacr_breve; | 41 |
| &a_latingrave; | 41 | &amacr_grave; | 41 |
| &A_strongacute; | 40 | &Amacr1; | 41 |
| &a_strongacute; | 41 | &amacr1; | 41 |
| &A_stronggrave; | 41 | &amacr2; | 41 |
| &a_stronggrave; | 41 | &Aathcal; | 68 |
| Á | 40 | &Aathfrak; | 68 |
| á | 41 | &amathfrak; | 68 |
| á_subdot; | 41 | & | 58 |
| Ă | 41 | ∧ | 66 |
| ă | 41 | ∠ | 67 |
| &Acaron; | 41 | ∠ | 67 |
| &acaron; | 41 | &Aodot; | 41 |
| &acedil; | 42 | &aodot; | 41 |
| Â | 41 | &aogonek; | 42 |
| â | 41 | &apolhook; | 42 |
| â_subdot; | 42 | ' | 60 |
| ´ | 40 | &arch; | 40 |
| &ae_acute; | 42 | Å | 41 |
| &ae_grave; | 42 | å | 41 |

| | | | |
|---------------------------------|----|---------------------------------|----|
| <code>&asterisk3;</code> | 61 | <code>&caron;</code> | 40 |
| <code>&asterisk3inv;</code> | 61 | <code>&cbreve;</code> | 43 |
| <code>&asubacute;</code> | 42 | <code>&Ccaron;</code> | 42 |
| <code>&Asubbar;</code> | 41 | <code>&ccaron;</code> | 43 |
| <code>&asubbar;</code> | 42 | <code>&Ccedil;</code> | 42 |
| <code>&Asubdot;</code> | 41 | <code>&ccedil;</code> | 43 |
| <code>&asubdot;</code> | 41 | <code>&ccedil_grave;</code> | 43 |
| <code>&asubring;</code> | 42 | <code>&ccedil_tilde;</code> | 43 |
| <code>&asymp;</code> | 67 | <code>&ccirc;</code> | 43 |
| <code>&Atilde;</code> | 41 | <code>&ccurl;</code> | 43 |
| <code>&atilde;</code> | 41 | <code>&cdot;</code> | 66 |
| <code>&atilde_acute;</code> | 41 | <code>&cedil;</code> | 40 |
| <code>&atilde1;</code> | 41 | <code>&cent;</code> | 60 |
| <code>&aturn;</code> | 42 | <code>&Cgrave;</code> | 42 |
| <code>&aturn_tilde;</code> | 42 | <code>&cgrave;</code> | 43 |
| <code>&aturn_tilde1;</code> | 42 | <code>&Chi;</code> | 65 |
| <code>&Auml;</code> | 41 | <code>&chi;</code> | 66 |
| <code>&auml;</code> | 41 | <code>&circ;</code> | 40 |
| <code>&auml_acute;</code> | 41 | <code>&clubs;</code> | 60 |
| <code>&auml1;</code> | 41 | <code>&cmacr;</code> | 43 |
| <code>&Avec;</code> | 67 | <code>&Cmathbb;</code> | 69 |
| <code>&avec;</code> | 67 | <code>&Cmathcal;</code> | 68 |
| <code>&awacute;</code> | 42 | <code>&Cmathfrak;</code> | 68 |
| <code>&backslash;</code> | 66 | <code>&cmathfrak;</code> | 68 |
| <code>&Bacute;</code> | 42 | <code>&Codot;</code> | 42 |
| <code>&bacute;</code> | 42 | <code>&codot;</code> | 43 |
| <code>&bdquo;</code> | 59 | <code>&cong;</code> | 67 |
| <code>&Beta;</code> | 63 | <code>&copuod;</code> | 67 |
| <code>&beta;</code> | 63 | <code>&copy;</code> | 58 |
| <code>&betavec;</code> | 68 | <code>&crotchet;</code> | 61 |
| <code>&Bgrave;</code> | 42 | <code>&csubbar;</code> | 43 |
| <code>&bgrave;</code> | 42 | <code>&Csubdot;</code> | 42 |
| <code>&Bmacr;</code> | 42 | <code>&cup;</code> | 66 |
| <code>&bmacr;</code> | 42 | <code>&curren;</code> | 60 |
| <code>&Bmathcal;</code> | 68 | <code>&Dacute;</code> | 43 |
| <code>&Bmathfrak;</code> | 68 | <code>&dacute;</code> | 43 |
| <code>&bmathfrak;</code> | 68 | <code>&Dagger;</code> | 60 |
| <code>&breve;</code> | 40 | <code>&dagger;</code> | 60 |
| <code>&brvbar;</code> | 58 | <code>&dArr;</code> | 59 |
| <code>&bsubbar;</code> | 42 | <code>&darr;</code> | 59 |
| <code>&Bsubdot;</code> | 42 | <code>&dash;</code> | 60 |
| <code>&bsubdot;</code> | 42 | <code>&dashacute;</code> | 60 |
| <code>&bsubring;</code> | 42 | <code>&dashgrave;</code> | 60 |
| <code>&bull;</code> | 60 | <code>&dbar;</code> | 43 |
| <code>&Bvec;</code> | 67 | <code>&Dcirc;</code> | 43 |
| <code>&bvec;</code> | 67 | <code>&dcross;</code> | 43 |
| <code>&Cacute;</code> | 42 | <code>&deg;</code> | 60 |
| <code>&cacute;</code> | 42 | <code>&Delta;</code> | 63 |
| <code>&cap;</code> | 66 | <code>&delta;</code> | 63 |

| | | | |
|----------------------------------|----|---------------------------------------|----|
| <code>&Dgrave;</code> | 43 | <code>&emacr_breve;</code> | 44 |
| <code>&dgrave;</code> | 43 | <code>&emacr_caron;</code> | 44 |
| <code>&diams;</code> | 61 | <code>&emacr_grave;</code> | 44 |
| <code>&divide;</code> | 66 | <code>&emacr_polhook;</code> | 44 |
| <code>&dmacr;</code> | 43 | <code>&emacr_tilde;</code> | 44 |
| <code>&Dmathbb;</code> | 69 | <code>&Emacr1;</code> | 44 |
| <code>&Dmathcal;</code> | 68 | <code>&emacr1;</code> | 44 |
| <code>&Dmathfrak;</code> | 68 | <code>&emacr2;</code> | 44 |
| <code>&dollar;</code> | 60 | <code>&empty;</code> | 66 |
| <code>&doubledash;</code> | 60 | <code>&emsp;</code> | 61 |
| <code>&dsubbar;</code> | 43 | <code>&eng;</code> | 57 |
| <code>&Dsubdot;</code> | 43 | <code>&eng_acute;</code> | 57 |
| <code>&dsubdot;</code> | 43 | <code>&eng_odot;</code> | 57 |
| <code>&dsubring;</code> | 43 | <code>&ensp;</code> | 61 |
| <code>&dunderdot;</code> | 43 | <code>&Eodot;</code> | 44 |
| <code>&E_accentacute;</code> | 43 | <code>&eodot;</code> | 44 |
| <code>&e_accentacute;</code> | 44 | <code>&eogonek;</code> | 44 |
| <code>&E_accentgrave;</code> | 43 | <code>&epolhook;</code> | 44 |
| <code>&e_accentgrave;</code> | 44 | <code>&Epsilon;</code> | 63 |
| <code>&E_latinacute;</code> | 43 | <code>&epsilon;</code> | 63 |
| <code>&e_latinacute;</code> | 44 | <code>&epsilonacute;</code> | 63 |
| <code>&E_latingrave;</code> | 43 | <code>&epsilonbreve;</code> | 64 |
| <code>&e_latingrave;</code> | 44 | <code>&epsilongrave;</code> | 63 |
| <code>&E_strongacute;</code> | 43 | <code>&epsilonmacr;</code> | 64 |
| <code>&e_strongacute;</code> | 44 | <code>&epsilonrev;</code> | 64 |
| <code>&E_stronggrave;</code> | 43 | <code>&epsilonrev_hook;</code> | 64 |
| <code>&e_stronggrave;</code> | 44 | <code>&epsilontilde;</code> | 64 |
| <code>&Eacute;</code> | 43 | <code>&epsilontilde_acute;</code> | 64 |
| <code>&eacute;</code> | 44 | <code>&epsilontilde1;</code> | 64 |
| <code>&earch;</code> | 44 | <code>&equiv;</code> | 67 |
| <code>&Ebreve;</code> | 43 | <code>&Ering;</code> | 44 |
| <code>&ebreve;</code> | 44 | <code>&esh;</code> | 58 |
| <code>&Ecaron;</code> | 44 | <code>&esubacute;</code> | 44 |
| <code>&ecaron;</code> | 44 | <code>&Esubbar;</code> | 44 |
| <code>&ecedil;</code> | 44 | <code>&esubbar;</code> | 44 |
| <code>&Ecirc;</code> | 43 | <code>&esubdot;</code> | 44 |
| <code>&ecirc;</code> | 44 | <code>&Eta;</code> | 64 |
| <code>&ecirc_acute;</code> | 44 | <code>&eta;</code> | 64 |
| <code>&ecirc_caron;</code> | 44 | <code>&etaacute;</code> | 64 |
| <code>&ecirc_grave;</code> | 44 | <code>&etamacr_acute;</code> | 64 |
| <code>&ecirc_macr;</code> | 44 | <code>&etamacr1;</code> | 64 |
| <code>&ecirc_subdot;</code> | 44 | <code>&etasubiota;</code> | 64 |
| <code>&ecirc1;</code> | 44 | <code>&ETH;</code> | 56 |
| <code>&Egrave;</code> | 43 | <code>&eth;</code> | 56 |
| <code>&egrave;</code> | 44 | <code>&Etilde;</code> | 43 |
| <code>&Emacr;</code> | 43 | <code>&etilde;</code> | 44 |
| <code>&emacr;</code> | 44 | <code>&etilde_acute;</code> | 44 |
| <code>&Emacr_acute;</code> | 44 | <code>&etilde1;</code> | 44 |
| <code>&emacr_acute;</code> | 44 | <code>&Euml;</code> | 43 |

| | | | |
|----------------------------------|----|----------------------------------|----|
| <code>&euml;</code> | 44 | <code>&gt;</code> | 58 |
| <code>&euro;</code> | 60 | <code>&Hacute;</code> | 45 |
| <code>&exist;</code> | 66 | <code>&hacute;</code> | 45 |
| <code>&Facute;</code> | 45 | <code>&hakenkreuz;</code> | 60 |
| <code>&facute;</code> | 45 | <code>&halflength;</code> | 58 |
| <code>&fahrenheit;</code> | 60 | <code>&hArr;</code> | 59 |
| <code>&fallingdotseq;</code> | 67 | <code>&harr;</code> | 59 |
| <code>&fermata;</code> | 61 | <code>&Hcedil;</code> | 45 |
| <code>&Fgrave;</code> | 45 | <code>&hcedil;</code> | 46 |
| <code>&fgrave;</code> | 45 | <code>&Hcirc;</code> | 45 |
| <code>&flat;</code> | 61 | <code>&hcirc;</code> | 45 |
| <code>&Fmacr;</code> | 45 | <code>&Hcross;</code> | 45 |
| <code>&fmacr;</code> | 45 | <code>&hcross;</code> | 46 |
| <code>&Fmathcal;</code> | 68 | <code>&hearts;</code> | 61 |
| <code>&Fmathfrak;</code> | 68 | <code>&hellip;</code> | 61 |
| <code>&fnof;</code> | 45 | <code>&Hgrave;</code> | 45 |
| <code>&forall;</code> | 67 | <code>&hgrave;</code> | 45 |
| <code>&frac1_10;</code> | 62 | <code>&hhookt;</code> | 46 |
| <code>&frac12;</code> | 62 | <code>&hmacr;</code> | 45 |
| <code>&frac13;</code> | 62 | <code>&Hmathbb;</code> | 69 |
| <code>&frac14;</code> | 62 | <code>&Hmathfrak;</code> | 68 |
| <code>&frac34;</code> | 62 | <code>&hsubbar;</code> | 46 |
| <code>&frasl;</code> | 61 | <code>&Hsubbreve;</code> | 45 |
| <code>&frown;</code> | 60 | <code>&hsubbreve;</code> | 46 |
| <code>&Fsubbar;</code> | 45 | <code>&hsubcaron;</code> | 46 |
| <code>&Fsubdot;</code> | 45 | <code>&Hsubdot;</code> | 45 |
| <code>&Gacute;</code> | 45 | <code>&hsubdot;</code> | 45 |
| <code>&gacute;</code> | 45 | <code>&hturn;</code> | 46 |
| <code>&Gamma;</code> | 63 | <code>&hturn_subdot;</code> | 46 |
| <code>&gamma;</code> | 63 | <code>&Hunderdot;</code> | 45 |
| <code>&gammaadot;</code> | 63 | <code>&hunderdot;</code> | 45 |
| <code>&gbreve;</code> | 45 | <code>&I_accentacute;</code> | 46 |
| <code>&gcaron;</code> | 45 | <code>&i_accentacute;</code> | 46 |
| <code>&gcirc;</code> | 45 | <code>&I_accentgrave;</code> | 46 |
| <code>&ge;</code> | 67 | <code>&i_accentgrave;</code> | 46 |
| <code>&Ggrave;</code> | 45 | <code>&I_latinacute;</code> | 46 |
| <code>&ggrave;</code> | 45 | <code>&i_latinacute;</code> | 46 |
| <code>&glotstop;</code> | 58 | <code>&I_latingrave;</code> | 46 |
| <code>&glsrev;</code> | 58 | <code>&i_latingrave;</code> | 46 |
| <code>&glssup;</code> | 58 | <code>&I_strongacute;</code> | 46 |
| <code>&gmacr;</code> | 45 | <code>&i_strongacute;</code> | 46 |
| <code>&gmacr_breve;</code> | 45 | <code>&I_stronggrave;</code> | 46 |
| <code>&Gmathfrak;</code> | 68 | <code>&i_stronggrave;</code> | 46 |
| <code>&gmathfrak;</code> | 68 | <code>&Iacute;</code> | 46 |
| <code>&Godot;</code> | 45 | <code>&iacute;</code> | 46 |
| <code>&godot;</code> | 45 | <code>&lbar;</code> | 46 |
| <code>&grave;</code> | 40 | <code>&ibar;</code> | 47 |
| <code>&gsubbar;</code> | 45 | <code>&ibar_acute;</code> | 47 |
| <code>&Gsubdot;</code> | 45 | <code>&ibar_caron;</code> | 47 |

| | | | |
|---------------------------------------|----|---------------------------------------|----|
| <code>&ibar_grave;</code> | 47 | <code>&isubcirc;</code> | 47 |
| <code>&ibar1;</code> | 47 | <code>&Isubdot;</code> | 46 |
| <code>&ibar2;</code> | 47 | <code>&isubdot;</code> | 47 |
| <code>&Ibreve;</code> | 46 | <code>&Itilde;</code> | 46 |
| <code>&ibreve;</code> | 47 | <code>&itilde;</code> | 47 |
| <code>&Icaron;</code> | 46 | <code>&itilde_acute;</code> | 47 |
| <code>&icaron;</code> | 47 | <code>&itilde1;</code> | 47 |
| <code>&Icirc;</code> | 46 | <code>&Iuml;</code> | 46 |
| <code>&icirc;</code> | 47 | <code>&iuml;</code> | 47 |
| <code>&icirc_acute;</code> | 47 | <code>&iuml_acute;</code> | 47 |
| <code>&icirc1;</code> | 47 | <code>&iuml1;</code> | 47 |
| <code>&idotless;</code> | 47 | <code>&Iupperdot;</code> | 46 |
| <code>&iexcl;</code> | 58 | <code>&Jacute;</code> | 47 |
| <code>&Igrave;</code> | 46 | <code>&jacute;</code> | 47 |
| <code>&igrave;</code> | 46 | <code>&Jcaron;</code> | 47 |
| <code>&Imacr;</code> | 46 | <code>&jcaron;</code> | 47 |
| <code>&imacr;</code> | 47 | <code>&jcurl;</code> | 47 |
| <code>&Imacr_acute;</code> | 46 | <code>&Jgrave;</code> | 47 |
| <code>&imacr_acute;</code> | 47 | <code>&jmacr;</code> | 47 |
| <code>&imacr_breve;</code> | 47 | <code>&jvec;</code> | 67 |
| <code>&imacr_caron;</code> | 47 | <code>&Kacute;</code> | 47 |
| <code>&imacr_tilde;</code> | 47 | <code>&kacute;</code> | 48 |
| <code>&Imacr1;</code> | 46 | <code>&Kappa;</code> | 64 |
| <code>&imacr1;</code> | 47 | <code>&kappa;</code> | 64 |
| <code>&image;</code> | 67 | <code>&Kgrave;</code> | 47 |
| <code>&infin;</code> | 67 | <code>&kgrave;</code> | 48 |
| <code>&infty;</code> | 67 | <code>&Kmacr;</code> | 47 |
| <code>&int;</code> | 67 | <code>&Kmathfrak;</code> | 68 |
| <code>&int_down;</code> | 60 | <code>&kmathfrak;</code> | 68 |
| <code>&int_downlow;</code> | 60 | <code>&ksubbar;</code> | 48 |
| <code>&int_downup;</code> | 60 | <code>&Ksubdot;</code> | 47 |
| <code>&int_up;</code> | 60 | <code>&ksubdot;</code> | 48 |
| <code>&Iodot;</code> | 46 | <code>&kunderdot;</code> | 48 |
| <code>&Iota;</code> | 64 | <code>&Lacute;</code> | 48 |
| <code>&iota;</code> | 64 | <code>&lacute;</code> | 48 |
| <code>&iotaacute;</code> | 64 | <code>&Lambda;</code> | 64 |
| <code>&iquest;</code> | 59 | <code>&lambdabmacr;</code> | 64 |
| <code>&Isc;</code> | 46 | <code>&lang;</code> | 59 |
| <code>&Isc_acute;</code> | 46 | <code>&laquo;</code> | 59 |
| <code>&Isc_grave;</code> | 46 | <code>&LArr;</code> | 59 |
| <code>&isin;</code> | 66 | <code>&larr;</code> | 59 |
| <code>&islash;</code> | 47 | <code>&lbelt;</code> | 48 |
| <code>&islash_acute;</code> | 47 | <code>&lcedil;</code> | 48 |
| <code>&islash_caron;</code> | 47 | <code>&lceil;</code> | 59 |
| <code>&islash1;</code> | 47 | <code>&ldquo;</code> | 59 |
| <code>&isubacute;</code> | 47 | <code>&le;</code> | 67 |
| <code>&isubarch;</code> | 47 | <code>&length;</code> | 58 |
| <code>&Isubbar;</code> | 46 | <code>&lesssim;</code> | 67 |
| <code>&isubbar;</code> | 47 | | |

| | | | |
|--|----|----------------------------------|----|
| <code>&lfloor;</code> | 59 | <code>&mring;</code> | 48 |
| <code>&Lgrave;</code> | 48 | <code>&mslash;</code> | 48 |
| <code>&lgrave;</code> | 48 | <code>&Msubdot;</code> | 48 |
| <code>&lim_underrightarrow;</code> | 68 | <code>&msubdot;</code> | 48 |
| <code>&lim_underrightarrow;</code> | 68 | <code>&msubdot_acute;</code> | 48 |
| <code>&litre;</code> | 60 | <code>&msubdot1;</code> | 48 |
| <code>&Lmathcal;</code> | 68 | <code>&msubring;</code> | 48 |
| <code>&lmathfrak;</code> | 68 | <code>&mtail;</code> | 48 |
| <code>&lowast;</code> | 66 | <code>&mtilde;</code> | 48 |
| <code>&loz;</code> | 66 | <code>&mturn;</code> | 48 |
| <code>&lrarrow;</code> | 59 | <code>&Mu;</code> | 64 |
| <code>&Lrev;</code> | 48 | <code>&mu;</code> | 64 |
| <code>&lrharpoons;</code> | 59 | <code>&muacute;</code> | 64 |
| <code>&lsaquo;</code> | 59 | <code>&muodot;</code> | 64 |
| <code>&Lslash;</code> | 48 | <code>&n_accentacute;</code> | 49 |
| <code>&lslash;</code> | 48 | <code>&n_accentgrave;</code> | 49 |
| <code>&lsquo;</code> | 59 | <code>&n_latinacute;</code> | 49 |
| <code>&lsubdot;</code> | 48 | <code>&n_latingrave;</code> | 49 |
| <code>&lsubring;</code> | 48 | <code>&n_strongacute;</code> | 49 |
| <code>&lsubuml;</code> | 48 | <code>&n_stronggrave;</code> | 49 |
| <code>&lt;</code> | 58 | <code>&n10acute;</code> | 62 |
| <code>&ltilde;</code> | 48 | <code>&n10grave;</code> | 62 |
| <code>&lxHashigoTaka;</code> | 69 | <code>&n1acute;</code> | 62 |
| <code>&lxHoho;</code> | 69 | <code>&n1grave;</code> | 62 |
| <code>&lxNomu;</code> | 69 | <code>&n2acute;</code> | 62 |
| <code>&lxRou;</code> | 69 | <code>&n2grave;</code> | 62 |
| <code>&lxShinaKamome;</code> | 69 | <code>&n3acute;</code> | 62 |
| <code>&lxTatsuSaki;</code> | 69 | <code>&n66grave;</code> | 62 |
| <code>&lxTou;</code> | 69 | <code>&n7acute;</code> | 62 |
| <code>&lxTsukamu;</code> | 69 | <code>&nabla;</code> | 67 |
| <code>&lxUso;</code> | 69 | <code>&Nacute;</code> | 49 |
| <code>&macr;</code> | 40 | <code>&nacute;</code> | 49 |
| <code>&Macute;</code> | 48 | <code>&natural;</code> | 61 |
| <code>&macute;</code> | 48 | <code>&nbreve;</code> | 49 |
| <code>&mathodot;</code> | 66 | <code>&nbsp;</code> | 58 |
| <code>&mcaron;</code> | 48 | <code>&Ncaron;</code> | 49 |
| <code>&mdash;</code> | 60 | <code>&ncaron;</code> | 49 |
| <code>&mdashacute;</code> | 60 | <code>&ncedil;</code> | 49 |
| <code>&mdashgrave;</code> | 60 | <code>&ndash;</code> | 60 |
| <code>&Mgrave;</code> | 48 | <code>&ndashacute;</code> | 60 |
| <code>&mgrave;</code> | 48 | <code>&ndashgrave;</code> | 60 |
| <code>&mho;</code> | 66 | <code>&ne;</code> | 67 |
| <code>&micro;</code> | 60 | <code>&nearrow;</code> | 59 |
| <code>&middot;</code> | 58 | <code>&Ngrave;</code> | 49 |
| <code>&minus;</code> | 66 | <code>&ngrave;</code> | 49 |
| <code>&Mmacr;</code> | 48 | <code>&ni;</code> | 66 |
| <code>&mmlac;</code> | 48 | <code>&nltail;</code> | 49 |
| <code>&Mmathfrak;</code> | 68 | <code>&Nmacr;</code> | 49 |
| <code>&modot;</code> | 48 | <code>&nmacr;</code> | 49 |

| | | | |
|----------------------------------|----|--------------------------------------|----|
| <code>&nmacr_acute;</code> | 49 | <code>&oetilde;</code> | 51 |
| <code>&nmacr1;</code> | 49 | <code>&oetilde_acute;</code> | 51 |
| <code>&Nmathbb;</code> | 69 | <code>&oetilde1;</code> | 51 |
| <code>&Nmathfrak;</code> | 68 | <code>&Ograve;</code> | 49 |
| <code>&nodot;</code> | 49 | <code>&ograve;</code> | 50 |
| <code>&not;</code> | 67 | <code>&ograve_subdot;</code> | 50 |
| <code>&notin;</code> | 67 | <code>&oint;</code> | 67 |
| <code>&nsub;</code> | 67 | <code>&oline;</code> | 61 |
| <code>&nsubbar;</code> | 49 | <code>&Omacr;</code> | 50 |
| <code>&Nsubdot;</code> | 49 | <code>&omacr;</code> | 50 |
| <code>&nsubdot;</code> | 49 | <code>&Omacr_acute;</code> | 50 |
| <code>&nsubring;</code> | 49 | <code>&omacr_acute;</code> | 50 |
| <code>&ntail;</code> | 49 | <code>&omacr_breve;</code> | 50 |
| <code>&Ntilde;</code> | 49 | <code>&omacr_caron;</code> | 50 |
| <code>&ntilde;</code> | 49 | <code>&omacr_circ;</code> | 50 |
| <code>&Nu;</code> | 65 | <code>&omacr_grave;</code> | 50 |
| <code>&nu;</code> | 65 | <code>&Omacr1;</code> | 50 |
| <code>&numacr;</code> | 65 | <code>&omacr1;</code> | 50 |
| <code>&nupperdot;</code> | 49 | <code>&omacr2;</code> | 50 |
| <code>&nwarrow;</code> | 59 | <code>&Omathcal;</code> | 68 |
| <code>&O_accentacute;</code> | 49 | <code>&Omathfrak;</code> | 68 |
| <code>&o_accentacute;</code> | 50 | <code>&omathfrak;</code> | 68 |
| <code>&O_accentgrave;</code> | 49 | <code>&Omega;</code> | 66 |
| <code>&o_accentgrave;</code> | 50 | <code>&omega;</code> | 66 |
| <code>&O_latinacute;</code> | 49 | <code>&omegasubiota;</code> | 66 |
| <code>&o_latinacute;</code> | 50 | <code>&Omicron;</code> | 65 |
| <code>&O_latingrave;</code> | 49 | <code>&omicron;</code> | 65 |
| <code>&o_latingrave;</code> | 50 | <code>&omicronacute;</code> | 65 |
| <code>&O_strongacute;</code> | 49 | <code>&ominus;</code> | 66 |
| <code>&o_strongacute;</code> | 50 | <code>&oodot;</code> | 50 |
| <code>&O_stronggrave;</code> | 49 | <code>&openo;</code> | 57 |
| <code>&o_stronggrave;</code> | 50 | <code>&openo_acute;</code> | 57 |
| <code>&Oacute;</code> | 49 | <code>&openo_caron;</code> | 57 |
| <code>&oacute;</code> | 50 | <code>&openo_grave;</code> | 57 |
| <code>&obar;</code> | 51 | <code>&openo_tilde;</code> | 57 |
| <code>&Obreve;</code> | 50 | <code>&openo_tilde_acute;</code> | 57 |
| <code>&obreve;</code> | 50 | <code>&openo_tilde1;</code> | 57 |
| <code>&Ocaron;</code> | 50 | <code>&oplus;</code> | 66 |
| <code>&ocaron;</code> | 50 | <code>&opolhook;</code> | 50 |
| <code>&ocedil;</code> | 51 | <code>&or;</code> | 66 |
| <code>&Ocirc;</code> | 49 | <code>&ordf;</code> | 58 |
| <code>&ocirc;</code> | 50 | <code>&ordm;</code> | 66 |
| <code>&ocirc_subdot;</code> | 50 | <code>&Oslash;</code> | 50 |
| <code>&odot;</code> | 40 | <code>&oslash;</code> | 50 |
| <code>&oeacute;</code> | 51 | <code>&oslash_acute;</code> | 50 |
| <code>&oegrave;</code> | 51 | <code>&oslash_grave;</code> | 50 |
| <code>&OElig;</code> | 51 | <code>&oslash_tilde;</code> | 50 |
| <code>&oelig;</code> | 51 | <code>&oslash1;</code> | 50 |
| <code>&oemacr;</code> | 51 | <code>&oslash2;</code> | 50 |

| | | | |
|----------------|----|-----------------|----|
| &osubacute; | 50 | Ψ | 66 |
| &Osubbar; | 50 | ψ | 66 |
| &osubbar; | 50 | &psubbar; | 51 |
| &Osubdot; | 50 | &Psubdot; | 51 |
| &osubdot; | 50 | &psubdot; | 51 |
| &osubdot2; | 50 | &pvec; | 68 |
| Õ | 49 | &Qacute; | 51 |
| õ | 50 | &qacute; | 51 |
| õ_acute; | 51 | &Qgrave; | 51 |
| õ1; | 51 | &qgrave; | 51 |
| ⊗ | 66 | &qmacr; | 51 |
| Ö | 49 | &Qmathbb; | 69 |
| ö | 50 | &qodot; | 51 |
| ö_acute; | 51 | &quadrupledash; | 60 |
| ö_grave; | 51 | " | 58 |
| ö1; | 51 | Ŕ | 51 |
| ö2; | 51 | ŕ | 52 |
| &oupperdot; | 50 | √ | 67 |
| &Owacute; | 50 | ⟩ | 59 |
| &owacute; | 51 | » | 59 |
| &Pacute; | 51 | ⇒ | 59 |
| &pacute; | 51 | → | 59 |
| ¶ | 58 | &rbreve; | 52 |
| ∂ | 67 | Ř | 51 |
| &partial; | 67 | ř | 52 |
| &pcirc; | 51 | ⌉ | 59 |
| ‰ | 60 | &rcirc; | 52 |
| ⊥ | 67 | ” | 59 |
| &Pgrave; | 51 | ℜ | 67 |
| &pgrave; | 51 | ® | 58 |
| Φ | 65 | ⌋ | 59 |
| φ | 65 | &Rgrave; | 51 |
| &phigrave; | 65 | &rgrave; | 52 |
| &phimacr; | 65 | Ρ | 65 |
| Π | 65 | ρ | 65 |
| π | 65 | &Rinv; | 51 |
| ± | 66 | &rlarrows; | 59 |
| &Pmacr; | 51 | &rlharpoons; | 59 |
| &pmacr; | 51 | &rlongleg; | 52 |
| &Pmathcal; | 68 | &rmacr; | 52 |
| &Pmathfrak; | 68 | &Rmathbb; | 69 |
| &pmathfrak; | 68 | &Rmathfrak; | 68 |
| £ | 60 | &rodot; | 52 |
| ″ | 67 | &Rrev; | 52 |
| ′ | 67 | › | 59 |
| &primstress; | 58 | ’ | 59 |
| ∏ | 67 | &rsubbar; | 52 |
| ∝ | 67 | &Rsubdot; | 51 |
| ∝ | 67 | &rsubdot; | 52 |

| | | | |
|--|----|--|----|
| <code>&rsubdot_macr;</code> | 52 | <code>&scripta_turn1;</code> | 57 |
| <code>&rsubring;</code> | 52 | <code>&scriptg;</code> | 57 |
| <code>&rsubuml;</code> | 52 | <code>&scriptg_cross;</code> | 57 |
| <code>&rtilde;</code> | 52 | <code>&scriptgamma;</code> | 63 |
| <code>&rvec;</code> | 68 | <code>&scriptgamma_caron;</code> | 63 |
| <code>&s_accentacute;</code> | 52 | <code>&scriptgamma_macr;</code> | 63 |
| <code>&s_accentgrave;</code> | 52 | <code>&sdot;</code> | 66 |
| <code>&s_latinacute;</code> | 52 | <code>&searrow;</code> | 59 |
| <code>&s_latingrave;</code> | 52 | <code>&secstress;</code> | 58 |
| <code>&s_strongacute;</code> | 52 | <code>&sect;</code> | 58 |
| <code>&s_stronggrave;</code> | 52 | <code>&Sgrave;</code> | 52 |
| <code>&Sacute;</code> | 52 | <code>&sgrave;</code> | 52 |
| <code>&sacute;</code> | 52 | <code>&shy;</code> | 58 |
| <code>&sbquo;</code> | 59 | <code>&Sigma;</code> | 65 |
| <code>&sbreve;</code> | 52 | <code>&sigma;</code> | 65 |
| <code>&Scaron;</code> | 52 | <code>&sigmaf;</code> | 65 |
| <code>&scaron;</code> | 52 | <code>&sim;</code> | 67 |
| <code>&Scedil;</code> | 52 | <code>&simeq;</code> | 67 |
| <code>&scedil;</code> | 52 | <code>&smacr;</code> | 52 |
| <code>&schwa;</code> | 57 | <code>&smacr_acute;</code> | 52 |
| <code>&schwa_acute;</code> | 57 | <code>&smacr1;</code> | 52 |
| <code>&schwa_caron;</code> | 57 | <code>&Smathcal;</code> | 68 |
| <code>&schwa_grave;</code> | 57 | <code>&Smathfrak;</code> | 68 |
| <code>&schwa_hook;</code> | 57 | <code>&smile;</code> | 60 |
| <code>&schwa_hook_acute;</code> | 57 | <code>&smileacute;</code> | 60 |
| <code>&schwa_hook_grave;</code> | 57 | <code>&spades;</code> | 61 |
| <code>&schwa_hook1;</code> | 57 | <code>&ssign;</code> | 56 |
| <code>&schwa_hook2;</code> | 57 | <code>&ssubacute;</code> | 52 |
| <code>&schwa_macr;</code> | 57 | <code>&ssubbar;</code> | 52 |
| <code>&schwa_tilde;</code> | 57 | <code>&Ssubdot;</code> | 52 |
| <code>&schwa_uml;</code> | 57 | <code>&ssubdot;</code> | 52 |
| <code>&Scirc;</code> | 52 | <code>&ssubdot_caron;</code> | 52 |
| <code>&scripta;</code> | 56 | <code>&ssubring;</code> | 52 |
| <code>&scripta_acute;</code> | 56 | <code>&stail;</code> | 53 |
| <code>&scripta_breve;</code> | 57 | <code>&stress1;</code> | 58 |
| <code>&scripta_circ;</code> | 56 | <code>&stress2;</code> | 58 |
| <code>&scripta_grave;</code> | 56 | <code>&sub;</code> | 66 |
| <code>&scripta_macr;</code> | 57 | <code>&subdot1;</code> | 41 |
| <code>&scripta_macr_acute;</code> | 57 | <code>&sube;</code> | 66 |
| <code>&scripta_macr_tilde;</code> | 57 | <code>&subset;</code> | 66 |
| <code>&scripta_macr1;</code> | 57 | <code>&subseteq;</code> | 66 |
| <code>&scripta_tilde;</code> | 56 | <code>&subsetneqq;</code> | 67 |
| <code>&scripta_tilde_acute;</code> | 56 | <code>&sum;</code> | 67 |
| <code>&scripta_tilde_grave;</code> | 56 | <code>&Sunderdot;</code> | 52 |
| <code>&scripta_tilde1;</code> | 56 | <code>&sup;</code> | 66 |
| <code>&scripta_tilde2;</code> | 56 | <code>&sup1;</code> | 58 |
| <code>&scripta_turn;</code> | 57 | <code>&sup2;</code> | 58 |
| <code>&scripta_turn_acute;</code> | 57 | <code>&sup3;</code> | 58 |
| <code>&scripta_turn_tilde;</code> | 57 | <code>&supe;</code> | 66 |

| | | | |
|-----------------|----|-----------------|--------|
| ⊃ | 66 | &u_accentgrave; | 54 |
| ⊇ | 66 | &U_latinacute; | 53 |
| &swangacute; | 60 | &u_latinacute; | 54 |
| &swanggrave; | 60 | &U_latingrave; | 53 |
| ↙ | 60 | &u_latingrave; | 54 |
| ß | 56 | &U_strongacute; | 53 |
| &Tacute; | 53 | &u_strongacute; | 54 |
| &tacute; | 53 | &U_stronggrave; | 53 |
| &tally; | 61 | &u_stronggrave; | 54 |
| &tally1; | 61 | Ú | 53 |
| &tally2; | 61 | ú | 54 |
| Τ | 65 | ⇑ | 59 |
| τ | 65 | ↑ | 59 |
| Ţ | 53 | &ubar; | 54 |
| ţ | 53 | &ubar_acute; | 54 |
| &teshlig; | 53 | &ubar1; | 54 |
| &Tgrave; | 53 | Ŭ | 53 |
| &tgrave; | 53 | ŭ | 54 |
| ∴ | 67 | &Ucaron; | 53 |
| Θ | 64 | &ucaron; | 54 |
| θ | 64 | &ucaron_grave; | 54 |
| &thetamacr; | 64 | &ucaron2; | 54 |
| ϑ | 64 | Û | 53 |
|   | 61 | û | 54 |
| Þ | 56 | Ù | 53 |
| þ | 56 | ù | 54 |
| &threedotacute; | 60 | Ū | 53 |
| &threedotgrave; | 60 | ū | 54 |
| &tick; | 60 | &Umacr_acute; | 53 |
| ˜ | 40 | &umacr_acute; | 54 |
| × | 66 | &umacr_breve; | 54 |
| &Tmacr; | 53 | &umacr_tilde; | 54 |
| &tmacr; | 53 | &umacr1; | 53, 54 |
| ™ | 61 | &Umathfrak; | 68 |
| &tripledash; | 60 | ¨ | 40 |
| &tslig; | 53 | Υ | 65 |
| &subbar; | 53 | υ | 65 |
| &subcaron; | 53 | &upsilonacute; | 65 |
| &Tsubdot; | 53 | &upsiloncaron; | 65 |
| &tsubdot; | 53 | &upsilongrave; | 65 |
| &tsubuml; | 53 | ů | 54 |
| &tsubwedge; | 53 | &Usc; | 53 |
| &ttail; | 53 | &Usc_acute; | 54 |
| &tturn; | 53 | &Usc_grave; | 54 |
| &Tunderdot; | 53 | &usubacute; | 54 |
| &tunderdot; | 53 | &Usubbar; | 53 |
| &U_accentacute; | 53 | &usubbar; | 54 |
| &u_accentacute; | 54 | &Usubdot; | 53 |
| &U_accentgrave; | 53 | Ũ | 53 |

| | | | |
|--------------------------------------|----|----------------------------------|----|
| <code>&utilde;</code> | 54 | <code>&xacute;</code> | 55 |
| <code>&Uuml;</code> | 53 | <code>&Xgrave;</code> | 55 |
| <code>&uuml;</code> | 54 | <code>&xgrave;</code> | 55 |
| <code>&uuml_acute;</code> | 54 | <code>&Xi;</code> | 65 |
| <code>&uuml_caron;</code> | 54 | <code>&xi;</code> | 65 |
| <code>&uuml_grave;</code> | 54 | <code>&Xmacr;</code> | 55 |
| <code>&uuml_subacute;</code> | 54 | <code>&xmacr;</code> | 55 |
| <code>&uuml1;</code> | 54 | <code>&Xmathcal;</code> | 68 |
| <code>&uuml2;</code> | 54 | <code>&xodot;</code> | 55 |
| <code>&uwacute;</code> | 54 | <code>&y_accentgrave;</code> | 55 |
| <code>&Vacute;</code> | 54 | <code>&y_latingrave;</code> | 55 |
| <code>&vacute;</code> | 54 | <code>&y_stronggrave;</code> | 55 |
| <code>&vee;</code> | 66 | <code>&Yacute;</code> | 55 |
| <code>&Vgrave;</code> | 54 | <code>&yacute;</code> | 55 |
| <code>&vgrave;</code> | 54 | <code>&ybreve;</code> | 56 |
| <code>&Vmacr;</code> | 54 | <code>&ycaron;</code> | 56 |
| <code>&vsubbar;</code> | 54 | <code>&ycirc;</code> | 55 |
| <code>&Vsubdot;</code> | 54 | <code>&yen;</code> | 60 |
| <code>&vsubdot;</code> | 54 | <code>&Ygrave;</code> | 55 |
| <code>&vturn;</code> | 57 | <code>&ygrave;</code> | 55 |
| <code>&vturn_acute;</code> | 57 | <code>&Ymacr;</code> | 55 |
| <code>&vturn_caron;</code> | 58 | <code>&ymacr;</code> | 55 |
| <code>&vturn_grave;</code> | 58 | <code>&ymacr_acute;</code> | 56 |
| <code>&vturn_tilde;</code> | 58 | <code>&ymacr_breve;</code> | 56 |
| <code>&vturn_tilde_acute;</code> | 58 | <code>&ymacr1;</code> | 56 |
| <code>&vturn_tilde1;</code> | 58 | <code>&Yodot;</code> | 55 |
| <code>&vvec;</code> | 68 | <code>&yodot;</code> | 56 |
| <code>&Wacute;</code> | 55 | <code>&yogh;</code> | 58 |
| <code>&wacute;</code> | 55 | <code>&yoghacute;</code> | 58 |
| <code>&wcaron;</code> | 55 | <code>&Ysubbar;</code> | 55 |
| <code>&wcirc;</code> | 55 | <code>&ytilde;</code> | 55 |
| <code>&wedge;</code> | 40 | <code>&yturn;</code> | 56 |
| <code>&weierp;</code> | 67 | <code>&yubisashi;</code> | 59 |
| <code>&Wgrave;</code> | 55 | <code>&Yuml;</code> | 55 |
| <code>&wgrave;</code> | 55 | <code>&yuml;</code> | 55 |
| <code>&whkamepl;</code> | 59 | <code>&Zacute;</code> | 56 |
| <code>&whkamepr;</code> | 59 | <code>&zacute;</code> | 56 |
| <code>&whsumipl;</code> | 59 | <code>&zbreve;</code> | 56 |
| <code>&whsumipr;</code> | 59 | <code>&Zcaron;</code> | 56 |
| <code>&Wmacr;</code> | 55 | <code>&zcaron;</code> | 56 |
| <code>&wmacr;</code> | 55 | <code>&Zeta;</code> | 64 |
| <code>&Wodot;</code> | 55 | <code>&zeta;</code> | 64 |
| <code>&wslash;</code> | 60 | <code>&Zgrave;</code> | 56 |
| <code>&Wsubdot;</code> | 55 | <code>&zgrave;</code> | 56 |
| <code>&wsubdot;</code> | 55 | <code>&zmacr;</code> | 56 |
| <code>&wtilde;</code> | 55 | <code>&Zmathbb;</code> | 69 |
| <code>&Wturn;</code> | 55 | <code>&zmathfrak;</code> | 68 |
| <code>&wturn;</code> | 55 | <code>&Zodot;</code> | 56 |
| <code>&Xacute;</code> | 55 | <code>&zodot;</code> | 56 |

| | | | |
|---------------|--------|------------|--------|
| &Zsubdot; | 56 | goro1 | 38 |
| &zsubdot; | 56 | goro2 | 38 |
| &zsubuml; | 56 | guideword | 22, 38 |
| &Zunderdot; | 56 | hatsuon | 22, 38 |
| &Zupperdot; | 56 | head | 11 |
| &zupperdot; | 56 | headword | 12 |
| %inline.html | 10 | henka | 25 |
| %inline.lexml | 10 | hidden | 35 |
| a | 34 | hinshi | 23, 38 |
| abbr | 24 | horizontal | 38 |
| acc1 | 38 | hs | 28 |
| acc2 | 38 | HTML ファイル | 34 |
| accent | 22 | i, I | 30 |
| adeadword | 27 | image | 16 |
| alabel | 21 | img | 34 |
| alive | 38 | index | 15 |
| article | 24 | indexlist | 15 |
| audio | 17 | inflec | 25 |
| b, B | 29 | ipa | 23 |
| betsu | 27 | jp | 27 |
| big | 29 | key | 12 |
| br, BR | 32 | kigo | 28 |
| byflow | 38 | kr | 27 |
| caption | 18 | kumi | 38 |
| column | 16 | lang | 25 |
| cs | 27 | latex | 38 |
| data | 20 | li | 18 |
| dd | 18 | light | 31 |
| dic-item | 10 | meaning | 13 |
| div | 16 | memo | 19 |
| dl | 18 | mlg | 33 |
| dt | 18 | mlgbr | 34 |
| em, EM | 29 | mn | 38 |
| etym | 24 | nobr | 33 |
| ex | 25 | note | 26 |
| example | 13 | oblq | 32 |
| fbox, FBOX | 31 | ol | 38 |
| freq | 38 | onjob | 38 |
| fullform | 25 | p | 17 |
| gender | 24 | pha | 22 |
| ggk | 28 | pinyin | 23 |
| gi | 35 | plural | 25 |
| glabel | 21 | POS | 23 |
| gogen | 24, 38 | | |

| | |
|-------------|--------|
| pos | 23 |
| pro-n | 26 |
| pro-nv | 26, 38 |
| pro-v | 26 |
| pron | 22 |
| rb | 33 |
| ref, REF | 35 |
| replace | 19 |
| rt | 33 |
| ruby | 33 |
| ryaku | 38 |
| sc | 32 |
| seibotsu | 27, 38 |
| slabel | 22 |
| small | 30 |
| span | 36 |
| spellout | 36 |
| split | 38 |
| spout | 38 |
| sub, SUB | 30 |
| subhead | 14 |
| subheadword | 14 |
| sup, SUP | 31 |
| svoc | 27 |
| table | 18 |
| td | 18 |
| th | 18 |
| title | 16 |
| tr | 18 |
| tw | 27 |
| u, U | 31 |
| ud | 32 |
| ul | 18 |
| url | 37, 38 |
| variant | 27 |
| video | 17 |
| vn | 38 |
| vnum | 38 |
| xref, XREF | 37 |
| ynd | 27 |
| アクセント | 22 |
| イタリック体 | 30 |
| 異綴 | 27 |

| | |
|----------|--------|
| インデクス | 15 |
| イントネーション | 22 |
| 上添え文字 | 31 |
| エンティティ | 39 |
| 置き換え | 19 |
| 音源 | 17 |
| 音標文字 | 22 |
| 改行 | 32, 34 |
| 外字 | 35, 39 |
| 解説 | 13, 16 |
| 顔文字 | 33 |
| 学習漢字 | 28 |
| 下線 | 31 |
| 画像 | 16, 34 |
| 括弧 (記号) | 59 |
| 下点 | 32 |
| 関係演算子 | 66 |
| 韓国語 | 27 |
| 簡体字 | 27 |
| キーワード | 12 |
| 季語 | 28 |
| 強調 | 29 |
| ギリシア文字 | 63 |
| 句例 | 25 |
| 言語 (原語) | 25 |
| 語義 | 13 |
| 国際音声記号 | 23 |
| 語形変化 | 25 |
| 語源 | 24 |
| 子見出し | 14 |
| コメントアウト | 35 |
| コラム | 16 |
| 在位、在任 | 27 |
| 参照 | 35, 37 |
| 下添え文字 | 30 |
| 実体参照 | 39 |
| 斜体 | 32 |
| 主語 | 27 |
| 省略 | 36 |
| 数値参照 | 39 |
| スピーチレベル | 21 |

| | | | |
|-----------|--------|---------|--------|
| スモールキャピタル | 32 | メモ | 19 |
| 性種別 | 24 | 目的語 | 27 |
| 生没年 | 27 | 矢印 (記号) | 59 |
| 全綴形 | 25 | 用例 | 13, 25 |
| 専門用語ラベル | 22 | 略語 | 24 |
| 代動詞 | 26 | ルビ | 33 |
| タイトル | 16 | 枠囲み | 31 |
| 代名詞 | 26 | 割ルビ | 33, 34 |
| 単位 (記号) | 60 | | |
| 地域ラベル | 21 | | |
| 中国語 | 27 | | |
| 中国語国際音声記号 | 23 | | |
| 注釈 | 26 | | |
| 通貨 (記号) | 60 | | |
| 定冠詞 | 24 | | |
| 定義リスト | 18 | | |
| 動画 | 17 | | |
| 動詞 | 27 | | |
| 2 項演算子 | 66 | | |
| 配当学年 | 28 | | |
| 派生語 | 14 | | |
| 発音 | 22, 23 | | |
| 発音記号 | 56 | | |
| パラグラフ | 17 | | |
| 繁体字 | 27 | | |
| 非序列リスト | 18 | | |
| 非表示 | 35 | | |
| 百科ラベル | 22 | | |
| 表組 | 18 | | |
| ピンイン | 23 | | |
| 品詞 | 23 | | |
| 複合語 | 14 | | |
| 太字 | 29 | | |
| 分禁 | 33 | | |
| 文型 | 27 | | |
| 文法ラベル | 21 | | |
| ボード | 29 | | |
| ボードイタリック | 29 | | |
| 補語 | 27 | | |
| 見出し語 | 11, 12 | | |